

平成 23 年度交通エコロジー・モビリティ財団支援事業

平成23年度

小学校における札幌らしい交通環境学習推進事業

報告書

平成 24 年 3 月 札幌市

【 目 次 】

第 1 章 事業の概要	1-1
1-1 事業の背景	1-1
1-1-1 札幌市の公共交通の状況について	1-1
1-1-2 札幌市温暖化対策推進ビジョン	1-3
1-1-3 札幌市の教育施策	1-4
1-2 事業の目的	1-5
第 2 章 実施内容の検討	2-1
2-1 北海道におけるこれまでのMM教育事例	2-1
2-1-1 北海道におけるMM教育の実践経緯	2-1
2-1-2 過去の実践において開発された技術やツール	2-2
2-2 課題の抽出と目標の設定	2-6
2-3 実施内容の検討	2-7
2-4 実施フロー	2-8
第 3 章 交通環境学習の検討	3-1
3-1 各学年における交通環境学習の検討	3-1
3-2 社会科における交通環境学習の検討	3-14
第 4 章 交通環境学習の実施	4-1
4-1 交通環境学習の実施	4-1
4-1-1 交通環境学習の実施概要	4-1
4-1-2 指導案	4-2
4-2 交通環境学習実施後の意見交換会の開催	4-6
4-2-1 交通環境学習実施後の意見交換会の開催概要	4-6
4-2-2 意見交換会での意見	4-7
第 5 章 交通環境学習プラットフォームの検討	5-1
5-1 交通環境学習プラットフォーム設置の目的	5-1
5-2 交通環境学習プラットフォームの取組み	5-2
5-2-1 関係者間の協働・連携方法について	5-2
5-2-2 web プラットフォームの構築	5-3
第 6 章 本事業のまとめと今後の方針	6-1
6-1 本事業のまとめと今後の方針	6-1
6-2 平成 24 年度のスケジュール	6-2

第1章 事業の概要

1-1 事業の背景

1-1-1 札幌市の公共交通の状況について

図 1-1に札幌市の公共交通機関の勢力圏図を示す。札幌市内には、公共交通として、札幌市交通局が運営する市営地下鉄（高速電車）と市電（路面電車）の他、北海道旅客鉄道(株)が運営する鉄道、北海道中央バス(株)、ジェイ・アール北海道バス(株)、(株)じょうてつ、札幌ばんけい(株)が運営する路線バスが存在し、市街化区域においては、100%近く公共交通機関でのアクセスが可能となっている。

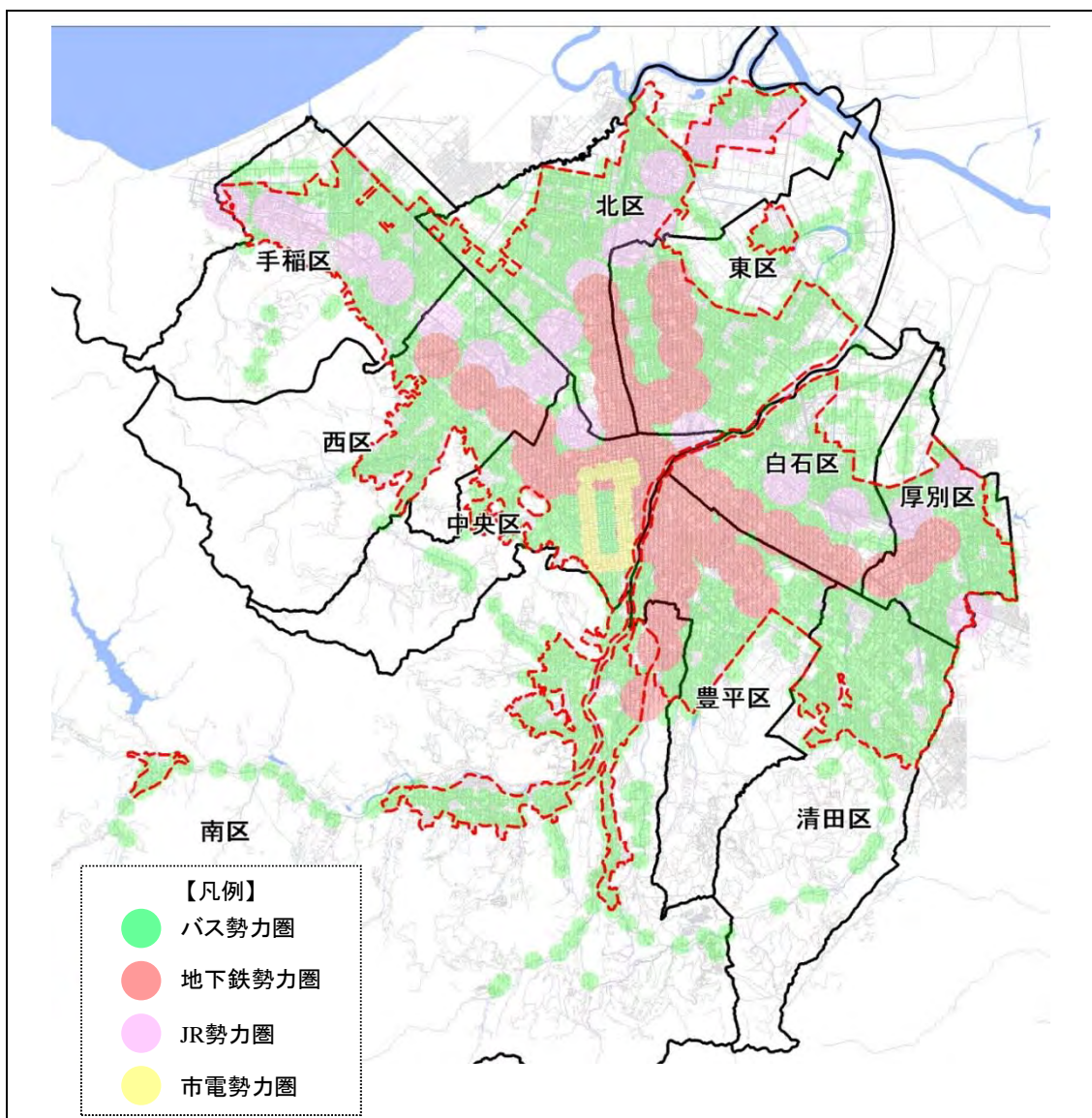


図 1-1 札幌市内の公共交通機関の勢力圏図

資料) 札幌市バス路線維持基本方針

しかしながら、図 1-2に示す急激なモータリゼーションの進展の影響により、公共交通機関の利用者は、全体として減少傾向にある。特に路線バスの一日の利用者数については、図 1-3に示すとおり、昭和 56 年に 543 千人/日であったのに対し、平成 21 年では 293 千人/日と約半数程度まで減少している状況にあり、今後の路線バスのサービス水準の維持や確保は重要かつ喫緊の課題であると言える。

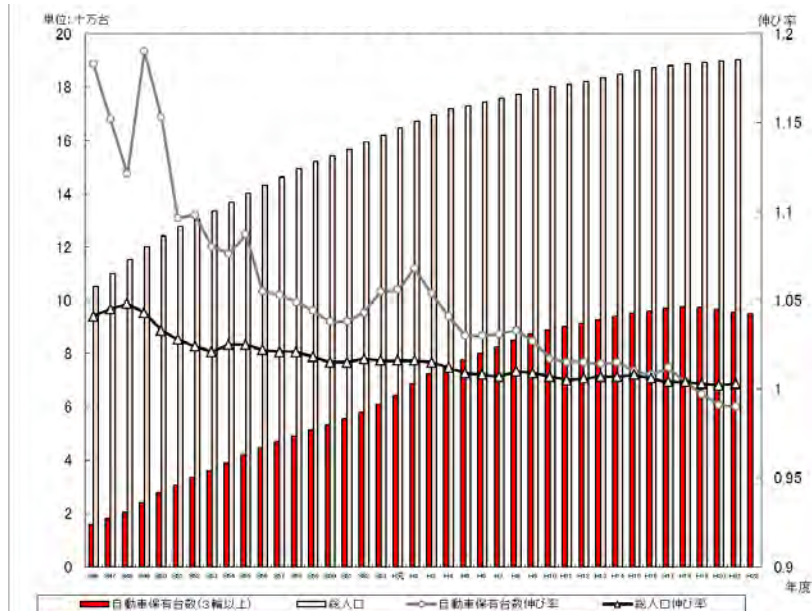


図 1-2 札幌市内の自動車保有台数と総人口の経年変化

資料) 都市交通データブック

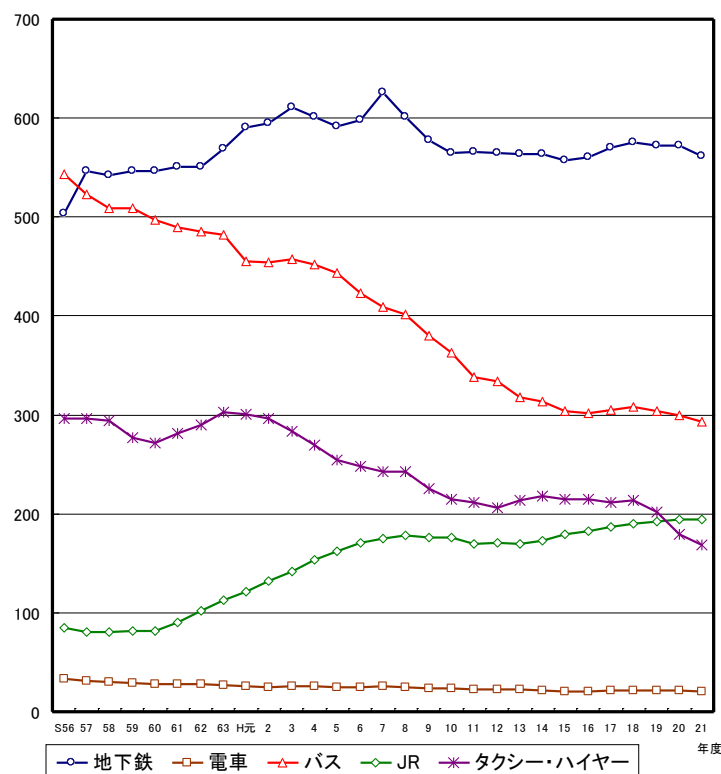


図 1-3 札幌市各輸送機関別乗車人員の推移 (1 日平均利用者数)

資料) 都市交通データブック

1-1-2 札幌市温暖化対策推進ビジョン

環境分野においては、札幌市は2008年6月に、「環境首都・札幌」を宣言し、2011年3月には、「札幌市温暖化対策推進ビジョン」を策定し、この中で、2020年に温室効果ガスの排出量を1990年比で25%削減、さらに、2050年に80%削減を目標と設定している(図1-4参照)。

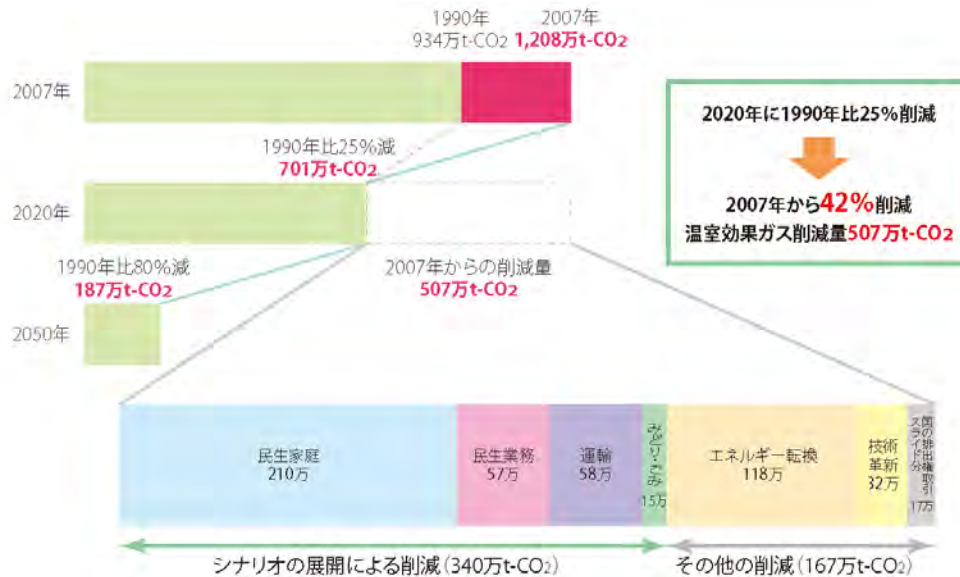


図 1-4 温室効果ガス削減量の目安

資料) 札幌市温暖化対策推進ビジョン

また、この目標を達成するために、図1-5に示す「温室効果ガス削減のための10のアクション」を定め、この3においては、次世代自動車や公共交通機関等の利用拡大に向けた展開が含まれ、これにより、58万t-CO₂の削減を見込んでいるところである。

温室効果ガス削減のための10のアクションによるシナリオ展開

- | | |
|------------------------------------|------------------------------|
| 1. 北国基準の省エネルギー住宅の普及に向けた展開 | 【約29万t-CO ₂ の削減】 |
| 2. 高効率給湯・暖房機器の普及に向けた展開 | 【約108万t-CO ₂ の削減】 |
| 3. 次世代自動車や公共交通機関等の利用拡大に向けた展開 | 【約58万t-CO ₂ の削減】 |
| 4. エコライフの定着・拡大に向けた展開 | 【約58万t-CO ₂ の削減】 |
| 5. 事業活動によるCO ₂ 削減に向けた展開 | 【約45万t-CO ₂ の削減】 |
| 6. 太陽光発電設備の導入拡大に向けた展開 | 【約9万t-CO ₂ の削減】 |
| 7. 木質バイオ燃料の導入・利用拡大に向けた展開 | 【約13万t-CO ₂ の削減】 |
| 8. 再生可能エネルギー等の利用拡大に向けた展開 | 【約5万t-CO ₂ の削減】 |
| 9. ごみ減量・リサイクルの定着・拡大に向けた展開 | 【約6万t-CO ₂ の削減】 |
| 10. 地域のみどりの育成に向けた展開 | 【約9万t-CO ₂ の削減】 |

図 1-5 温室効果ガス削減のための10のアクション

資料) 札幌市温暖化対策推進ビジョン

1-1-3 札幌市の教育施策

教育分野においては、札幌市では、「札幌市学校教育の重点」において、「札幌らしい特色ある学校教育」として、**雪・環境・読書**の3つのテーマを位置付け、ふるさと札幌に立脚して「生きる力」を育み、将来の札幌を支え、世界で活躍する自立した市民・社会人を育成することを目標としている。



図 1-6 札幌らしい特色ある学校教育

資料) 札幌らしい特色ある学校教育パンフレット

1-2 事業の目的

前述したとおり、札幌市では、「札幌市温暖化対策推進ビジョン」を策定し、温室効果ガス削減目標を達成するために、「温室効果ガス削減のための 10 のアクション」を定め、この中で、「次世代自動車や公共交通機関等の利用拡大に向けた展開」を盛り込んでいるところである。さらに、教育面においても、「札幌らしい特色ある学校教育」の中に、「環境」をテーマに設定しているところである。

また、交通においては、市街化区域内の交通空白地は、ほぼ 0%に近い水準であり、一定の公共交通サービス水準は満たしている状況にあると言える。しかしながら、公共交通の利用者は全体として、減少傾向にあり、特に路線バスにおいての利用者減少の傾向は顕著である。

このような公共交通の利用者減少や、過度な自動車利用が引き起こす諸問題の発生は、札幌市に限ったことではなく、これら問題の解決に向け、1990 年代から交通需要マネジメント（TDM：Transportation Demand Management）が全国各地で、展開されるようになった。

しかしながら、我が国で実施が進んだ施策は、パークアンドライドやノーカーデー、フレックスタイムの導入等であり、これらについて、定量的な評価等は得られていないのが現状である。また、TDM の代表的施策である、ロードプライシングや都市部への流入規制は、国民やドライバーの公共受容の欠如等が理由となり、本格的な実施に至っていない状況にある。

つまり、TDM の展開や公共交通のサービス水準の維持や確保のみでは、公共交通利用者の増加や過度な自動車利用の抑制は図られないことが想定され、このような中、2000 年前後から、人の心理的な側面に焦点を当てアプローチを行うモビリティ・マネジメント（以下、MM と略記）という方法が開発され実践されることとなった。

MM の定義は以下に示す通りであり、ここで、「社会的にも個人的にも望ましい方向」とは、例えば、「過度な自動車利用から、公共交通・自転車等を適切に利用する方向」のことを指し、この「方向」だけに注目すると、これまでの道路の新設や拡張、あるいは利用者増を目指したバス路線の再編なども、MM に該当するものと考えられるが、定義の後半にある「コミュニケーションを中心とした施策」という部分、そして「自発的に変化することを促す」という部分が MM の重要な点といえる。

MMの定義

一人一人の移動（モビリティ）が、個人的にも社会的にも望ましい方向へ
自発的に変化することを促すコミュニケーションを中心とした交通政策

また、MM の対象としては、居住地域や職場、特定路線（沿線）に対するアプローチ等、様々であるが、学校教育を通じて児童・生徒に働きかけることで、短期的に児童・生徒の保護者の行動変容が図られる可能性があること、また、中長期的には、将来、自動車ユーザとなる可能性がある児童・生徒の自動車利用抑制の意識を活性化させる効果が確認されているところである。

以上を踏まえ、本事業においては、**MM教育**に着目し、これの札幌市内小学校を対象とした展開を検討することを目的とした。

なお、学校教育は、社会の諸問題を解決する場では決してなく、また、MM教育自体、単に公共交通の利用増や渋滞緩和等を目的とするようなものでもない。MM教育は、「交通」の中に存在する「社会的ジレンマ問題」を通じ、広く、環境意識や公共の精神を醸成することが目的であり、初等教育における学習教材として適することがこれまでの研究事例等で明らかとなっているものである。

第2章 実施内容の検討

2-1 北海道におけるこれまでのMM教育事例

2-1-1 北海道におけるMM教育の実践経緯

図 2-1に示すとおり、北海道内の小学校等を対象としたMM教育の事例としては、2000年に北海道教育大学附属札幌小学校（実施主体：北海道開発局札幌開発建設部）で実践され、以後、札幌市立平岡公園小学校（実施主体：札幌市）や札幌市立日新小学校（実施主体：（社）北海道開発技術センター）で実践され、これは、国内においても先進的な事例として位置づけられている。

これ以後は、札幌市内や江別市内、帯広市内においての実践事例が蓄積されるとともに、2007年には、子供向けのMM教育ツールとして、「交通すごろく」が作成された。また、2008年以後は、国土交通省の地域公共交通活性化再生総合事業が開始され、当別町等の自治体が設置する公共交通活性化協議会が主体となり実践されるとともに、北海道運輸局の交通エコロジー教室¹として、北海道内の自治体で展開されている現状にある。

2000年	北海道教育大学附属札幌小学校 5年生(北海道開発局札幌開発建設部)
2002年	札幌市立平岡公園小学校 5年生(札幌市)
2003年	札幌市立日新小学校 5年生((社)北海道開発技術センター自主研究)
2006年	札幌市立伏見小学校・江別市立上江別小学校 5年生(北海道開発局札幌開発建設部)
2007年	江別市立江別小学校 5年生(北海道開発局札幌開発建設部) 帯広市立稲田小学校 5年生(NEDO補助金) 交通すごろく(恵庭市版)の作成(北海道運輸局)
2008年	当別町立当別小学校・西当別小学校 5年生・弁華小学校 全校 恵庭市立松恵小学校 5年生(環境省北海道地方環境事務所) 北海道版MMマニュアルの作成(北海道運輸局)
2009年	当別町立当別小学校・西当別小学校 5年生(当別町地域公共交通活性化協議会) 札幌市立新陽小学校 6年生(北海道開発局札幌開発建設部)
2010年	当別町立当別小学校・西当別小学校 5年生(当別町地域公共交通活性化協議会) 札幌市立二十四軒小学校 6年生(北海道開発局札幌開発建設部)
2011年	登別市内小学校(北海道運輸局)

図 2-1 北海道におけるMM教育の事例

¹ 交通エコロジー教室：小学生などに早い段階から公共交通について考えてもらうことにより、環境問題と交通が密接に関わっていることなどを学習する取り組み

2-1-2 過去の実践において開発された技術やツール

以下に、過去に実践されたMM教育において、開発された技術や、ツールを示す。

(1) 交通ダイアリー調査（交通日記）に基づいたアドバイス法

2000年に実施された北海道教育大学附属札幌小学校及び、2002年に実施された札幌市立平岡公園小学校のMM教育の実践事例の中で、児童及びその保護者へ個別情報を提供するアドバイス法が開発され、そのツールとして、交通日記及び、アドバイスコメントを提供するためのエキスパートフローが開発された。また、このエキスパートフローの活用により作成された診断カルテは、図 2-4に示す。

図 2-2 交通日記

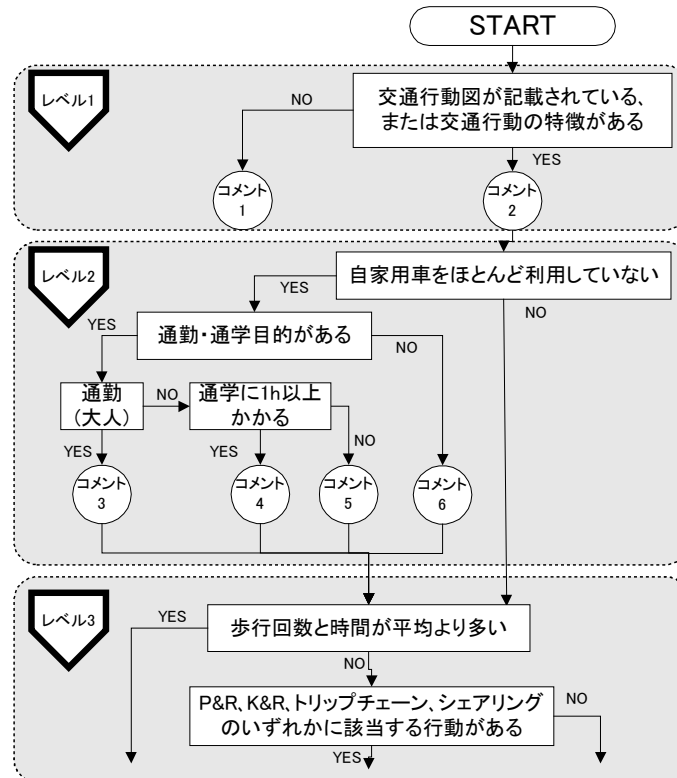


図 2-3 アドバイスコメント提供のためのエキスパートフロー

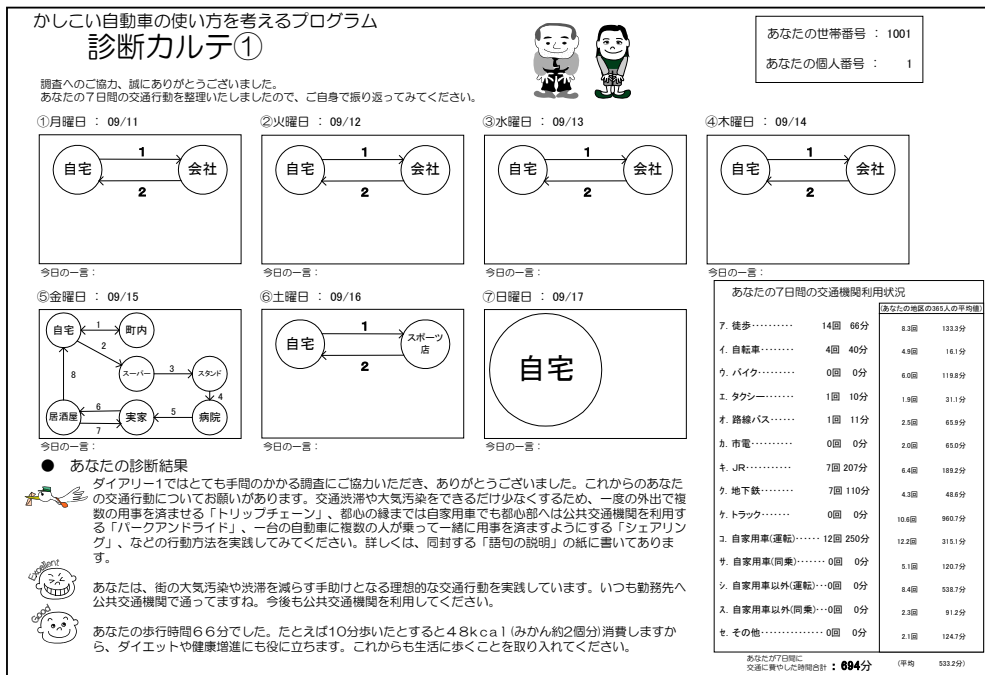


図 2-4 診断カルテ

(2) 自動車の利用方法を見直す方法を考える行動プラン法

2002年に実施された札幌市立平岡公園小学校のMM教育の実践事例の中で、授業の中でのプログラムとして実施する行動プラン法が開発され、下図のマイカー利用確認シートが作成された。行動プラン法とは、自動車利用を見直し、公共交通や自転車・徒歩による移動を机上で考えることにより、それが実践に結びつくという経験誘発法に基づいた手法である。

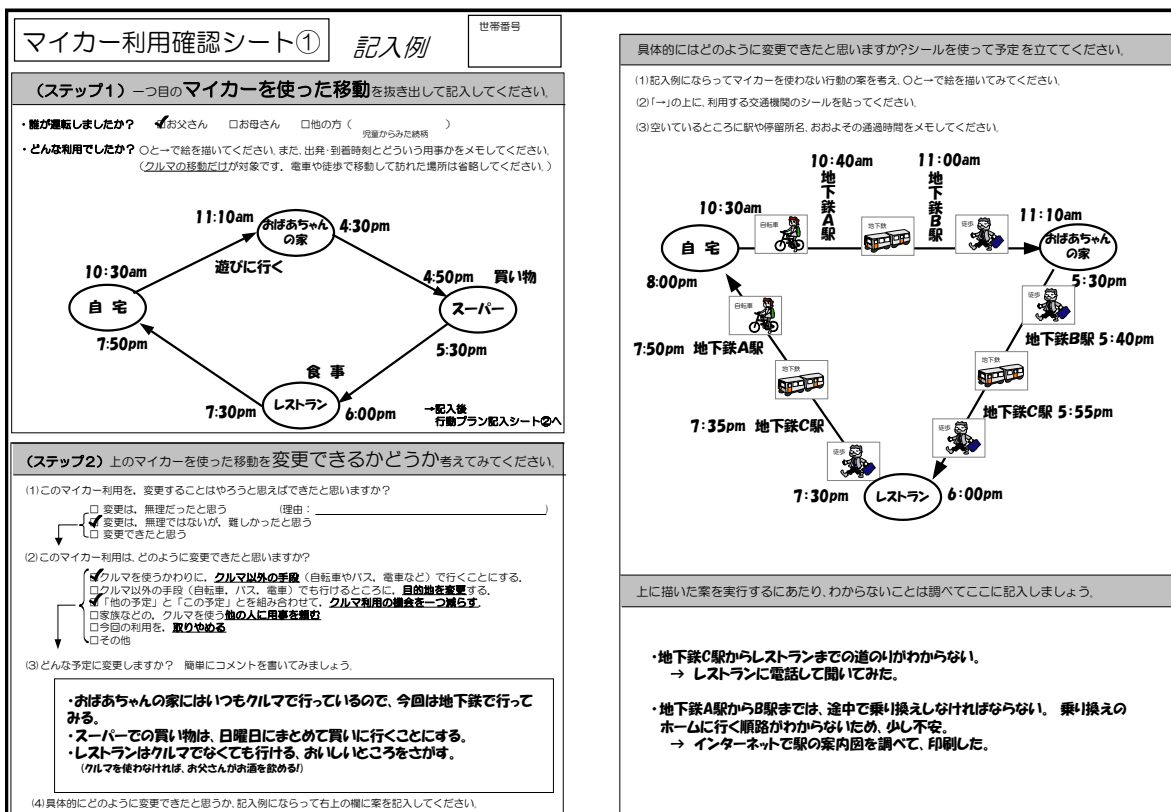


図 2-5 マイカー利用確認シート

(3) CO2 排出量を考慮した交通すごろく

2007年に北海道運輸局は恵庭市のコミュニティバス路線をイメージした交通すごろくを作成した。この交通すごろくの特徴としては、交通機関カードを選び、その交通機関カードの性質に応じたサイコロ個数を振りコマを進める点と、各交通機関には、排出するCO2量が定められており、ゴールの順位とCO2量の順位により、最終順位を決定する点が挙げられる。

2007年以後、北海道開発局札幌開発建設部により札幌市版、北海道運輸局により登別市版、当別町地域公共交通活性化協議会により当別版等が作成されている。



図 2-6 恵庭市の交通すごろく（北海道運輸局）

- ① ミッションカードをめくる
- ② 『スタート』からミッション達成をめざす。
- ③ 交通カードを選び、サイコロをふって進む
- ④ ミッションの場所に着いたら、1回、STOP！！
- ⑤ 『ゴール』へ向い、着いたら終了
- ⑥ 交通カードの枚数からCO2排出量を計算(計算シート有り)

■注意点

低学年の使用交通カードは、徒歩・バス・JR

高学年の使用交通カードは、徒歩・バス・JR・クルマ

	徒歩	JR	バス	クルマ
ふるサイコロ数	1個	1個 (線路を進める)	2個	3個
CO2排出量 (1枚当り)	0kg	1kg	3kg	10kg

⑦『ゴール』到着の順位 (ゴール到着が一番早いひとが1位)
+
CO2排出量の順位 (CO2排出量が一番少ないひとが1位)

→ 最終順位決定
2つの順位をたして、その値が小さいと勝ち

図 2-7 交通すごろくのルール



図 2-8 交通すごろく（北海道開発局札幌開発建設部）



図 2-9 登別市の交通すごろく（北海道運輸局）

2-2 課題の抽出と目標の設定

前節において整理した北海道内の事例の大部分は、行政側から学校側へ「交通環境学習の実施」を要請し、その要請を受け、学校側が1時間～3時間程度、授業のコマ数を確保し、その授業時間において、行政職員やコンサルタント企業の社員が「ゲストティーチャー」として授業を実施しているのが現状である。

この点においては、行政職員やコンサルタント企業の社員は、「交通」が専門であっても「教育」が専門であることはほとんど無いことが想定され、学校の本文である「教育」や文部科学省で定める学習指導要領が十分に考慮されていないことが懸念される。

また、行政やコンサルタント企業の社員がゲストティーチャーとして実施する「出前講座形式」での授業では、MM教育の拡大的実施において、限界があるものと考えられる。

加えて、大部分の実践事例が小学校5年生を対象としたものとなっており、他の学年においては、授業プログラム内容すら十分に検討された経緯が無いのが現状である。

さらに、前述した事例からも、MM教育の実施主体は多様であることから、関係団体等が連携する必要性が高いと考えられる。

以上の課題を踏まえ、本プロジェクトにおいて、設定した目標を表 2-1に示すこととする。

表 2-1 本プロジェクトの目標

目標①	学習指導要領と連動した学習プログラムの開発
目標②	1年生～6年生まで、各学年におけるMM教育の実施
目標③	教諭が主体となった授業の実施
目標④	札幌市内小学校へのMM教育の広がり
目標⑤	関係団体等の連携体制の構築

2-3 実施内容の検討

前節で示した目標を達成するために、本プロジェクトで実施及び検討する内容を表 2-2に整理する。

まず、目標①及び②に対しては、本プロジェクトで設置する検討委員会の他に小学校教諭により構成されるワーキンググループを設置し、そこを議論の場として、学習プログラムを検討することが目標達成に寄与することと考えられる。また、ワーキンググループでの議論を踏まえ、教諭に研究授業を実施いただき、さらに、ワーキンググループにフィードバックして、さらに議論を重ねることで、目標の達成を目指す。

また、目標③に対しては、本プロジェクトにおける授業実践においては、教諭が主体となった授業実践を行うことに留意することとする。

加えて、目標④に対しては、札幌市教育委員会が教諭向けに配布する指導書に本プロジェクトで検討した授業内容の掲載を目指すことで、多くの教諭への広がりが見られるものと考えられる。さらに、教諭に対する情報提供を web プラットフォームを通じて効率的に実施することや、教諭対象の研修会を実施することで、より、MM 教育に対する認知が加速するものと考えられる。

さらに、目標⑤に対しては、関係団体との協働体制を検討するとともに、関係団体間において、web プラットフォームを通じて、効率的に情報共有を図ることが目標達成に寄与するものと考えられる。

表 2-2 本プロジェクトの目標とそれに対応した実施内容

目標		実施・検討内容 等
目標 ①	学習指導要領と連動した 学習プログラムの開発	⇒ ・教諭を主体とするワーキンググループを設置し、 学習プログラムを検討 ・研究授業の蓄積
目標 ②	1年生～6年生まで、 各学年におけるMM教育の実施	
目標 ③	教諭が主体となった授業の実施	⇒ ・教諭が主体となった授業実践を実施
目標 ④	札幌市内小学校への MM教育の広がり	⇒ ・教諭に配布される指導書への掲載 ・web プラットフォームによる情報提供 ・教諭を対象とした研修会等の実施
目標 ⑤	関係団体等の連携体制の構築	⇒ ・協働体制の構築 ・web プラットフォームによる情報共有

2-4 実施フロー

本事業の実施フロー図を以下に示す。

実施フロー図に示す通り、検討内容は、「交通環境学習の検討」、「交通環境学習プラットフォームの検討」に大別され、各検討事項について、ワーキンググループによる議論を主として、進めた。

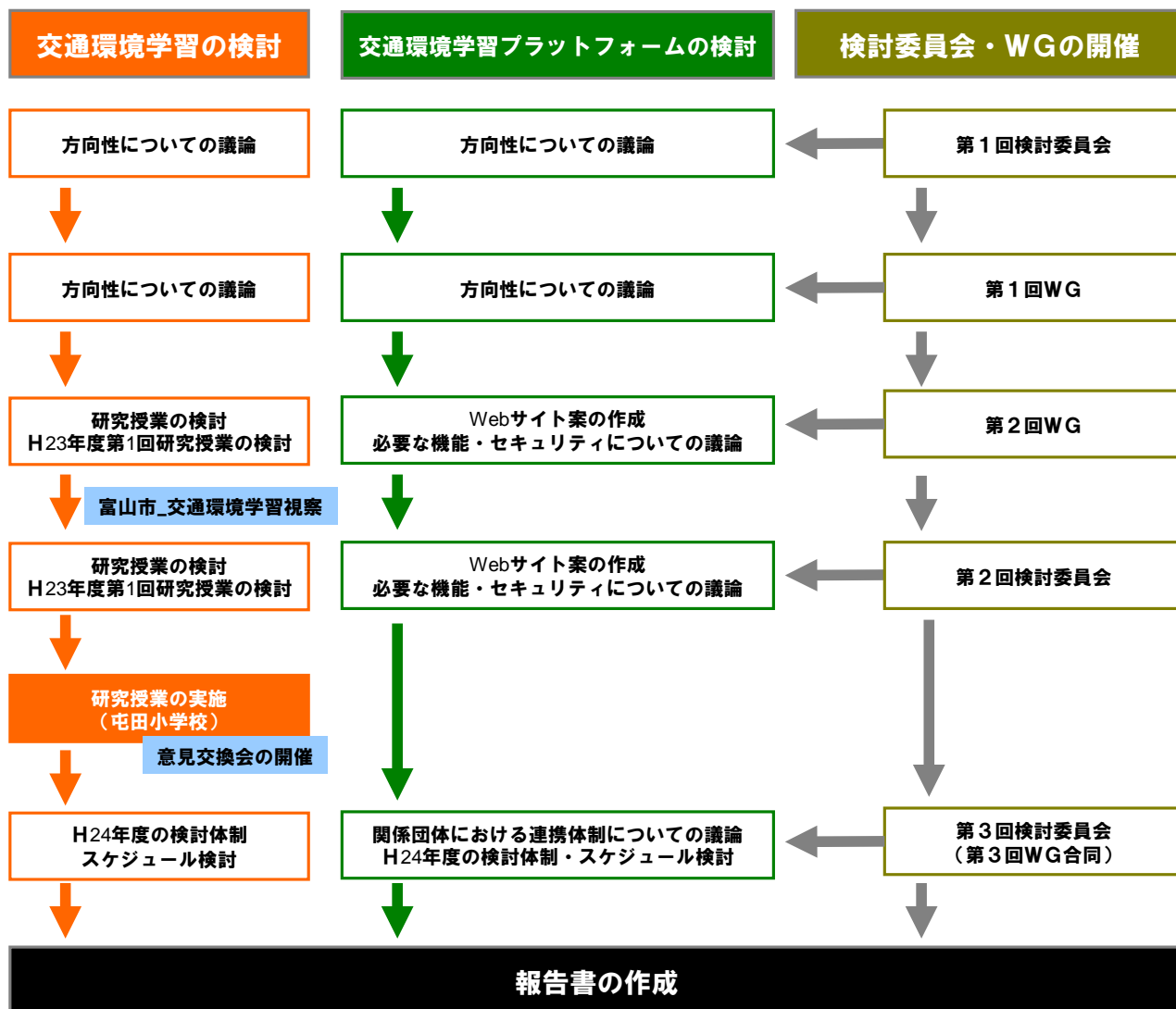


図 2-10 本事業の実施フロー

第3章 交通環境学習の検討

3-1 各学年における交通環境学習の検討

本事業の目標の一つである1年生～6年生までを通じた各学年におけるMM教育の実施については、この可能性について、検討委員会及びWGメンバーである札幌市立手稲宮丘小学校 牧野 宜英先生に検討いただいた。

この検討に際しては、「指導書への反映」というものが目標の一つであること、さらに、MM教育を実践する教科は社会科が適するという点を踏まえ、社会科（低学年は生活科）の指導書に反映することを念頭におき、検討を図っていただいた。なお、本検討にあたっては、学習指導要領にある教科目標等についてもご配慮いただいた。

検討結果として、以下の図に示すとおり、1年生においては、「知る」、2年生においては、「使う」、3・4年生においては、「広げる」、5年生においては、「深める」、6年生においては、「まとめる」という視点での展開方法が挙げられた。

また、牧野先生に検討いただいた具体的な資料については、次ページ以降に掲載する。



図 3-1 各学年における交通環境学習の視点

生活科におけるモビリティマネジメント

宮丘小学校 牧野 宜英

1. 学習指導要領より

○教科目標

具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う。

○教科目標の趣旨

(4) 生活上必要な習慣や技能を身に付けること

・安全への意識を高める

＊今年度からの学習指導要領では「交通安全教育」を重視

・施設や公共の場所のルールやマナーを守る

○学年目標の趣旨

(1) 自分と身近な人々及び地域の様々な場所、公共物などのかかわりに関心を持ち、地域のよさに気付き、愛着をもつことができるようにするとともに、集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方について考え、安全で適切な行動ができるようにする。

○内容構成の具体的な視点

ア 健康で安全な生活 → 健康や安全に気を付けて、友達と遊んだり、学校に通ったり、規則正しく生活したりすることができる。

エ 公共の意識とマナー → みんなで使う物や場所、施設を大切に正しく利用できるようにする。

この具体的な視点に関しては、以下のような考え方により改定した。

○健康で安全な生活では、低学年の事件や事故が課題となる中、登下校など通学路での安全にも十分配慮した行動ができるようにすることが必要である。

低学年の児童にかかわってほしい学習対象

④通学路 ⑧公共物 ⑨公共施設

ここで取り上げる公共物とは、例えば、…乗り物、道路標識や横断旗などみんなが利用するものが考えられる。公共施設としては、…駅、バスセンターなどみんなでする施設が考えられる。これらのほかにも、みんなが利用する掲示板や掲示物、多くの人が利用する河川敷や広場なども含めて幅広くとらえていくことが大切である。

2. 1年生におけるモビリティマネジメント

○学年目標 「知る」

具体的な活動や体験を通して、自分の身の回りには公共交通を含め様々な交通機関があることを知り、それらの良いところや気を付けなければならないところを考え、自分の生活に生かしていく。

○学習例

公園探検に行こう！

↓

○○公園に行くまでに××の道は車が多くて危ないよ

△△は歩道が広くて安心だよ

朝、学校に来るときにこの通りには自転車がいっぱい通っているよ

↓

同じような道路でも時間や場所によって通っているものが違うようだ

↓

校区内安全マップを作ろう

3. 2年生におけるモビリティマネジメント

○学年目標 「使う」

具体的な活動や体験を通して、公共物や公共施設の利用の仕方を学び、繰り返し利用することにより、そこに親しみや愛着をもち、自分から主体的に働きかけていく。

○学習例

雪祭りに行こう！

↓

地下鉄大通り駅で降りると便利だね

*その他、バスや市電の可能性も有

地下鉄はどうやって使うのかな

みんなが使うものや使う場所で気を付けることは？

どんな人が使っているんだろう？

↓

地下鉄等を使って雪まつりに行く

地下鉄は冬でも快適に移動できるから札幌の街にぴったりだね



↓

駅員さんにお礼の手紙を書こう


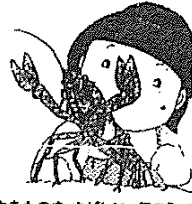
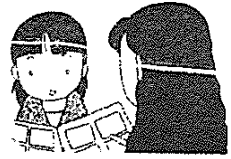
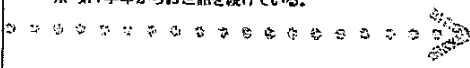
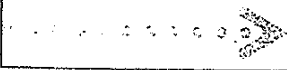
近くの○○駅を花でいっぱいにして



7 単元一覧表

第1学年 単元一覧表 (102時間)

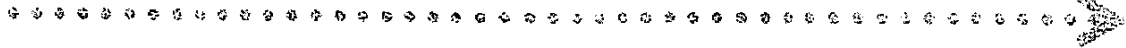
就学前の経験例	4月	5月	6月	7月	8月	9月
・散歩 ・ピクニック ・遠足 ・季節の自然遊び ・制作遊び ・水遊び ・砂遊び ・リズム遊び ・運動遊び ・表現遊び ・なわとび ・リレー ・野菜や花の収穫 ・小動物のお世話 ・当番活動 等々	できどき わくわく 1ねんせい (入学当初の活動のうち、3時間扱い) 内容(1) ・がっこうにいこう ・がっこうのことが 知りたいな ・なかよく なりたいな	がっこう だいすき 15時間扱い 内容(1)(5)(6)(8) ・みんなで がっこうを あるこう (3) ・がっこうを たんけん しよう (2) ・こうても たんけん しよう (2) ・がっこうの ひとと なかよく ならう (2) ・がっこうで みつけた ことを はなそう (3) ・みんなで つうがくろ を あるこう (3)	なつだ いっしょに あそぼうよ 9時間扱い 内容(4)(5)(6)(7) ☆ ・みんな こうえんで あそぼう (3) ・くさばなや むしを さがそう (2) ・つちや すなで あそぼう (2) ・みずで あそぼう(2) 	いきものと なかよし 6時間扱い 内容(7)(8)  ・むしを さがそう(3) ・むしと なかよく ならう(3)		
	各教科、領域の関連を考慮し、各学校の実態に応じて、「スタートカリキュラム」の編成も効果的である。 手引きP10を参照		きれいに さいてね たくさん さいてね ・たねを まこう(2) ・まいにち せわを しよう(2)		11時間扱い 内容(7)(8) ・はなを さかせよう(2)	内容(7)(8) ・たねとりを しよう(5)

第2学年 単元一覧表 (105時間)

4月	5月	6月	7月	8月	9月
2年生だ うれしいな 9時間扱い 内容(1)(3)(5)(8)(9) ・学校の 暮を 見つけよう (3) ・1年生を むかえよう (3) ・春の まちを 歩こう (3)	できどき わくわく まちたんけん 9時間扱い 内容(3)(8)  ・まちの ことを 話そう (1) ・まちたんけんの 計画を 立てよう (2) ・まちたんけんに行こう (3) ・まちの ことを つたえ合おう(3)	生きもの なかよし 大作せん 9時間扱い 内容(7)(8)  ・生きものを さがしに 行こう (2) ・生きものを つかまえよう(2)	みんなで 行こうよ つかおうよ 6時間扱い 内容(3)(4) ・図書館へ 行こう(3) ・図書館の ことを 聞いてみよう (3) 		
※ 第1学年からお世話を続けている。 		・生きものを そだてよう (2) ・生きもの広場に しょうたいしよう (3)			
※ 第1学年からお世話を続けている。 		おいしく そだて わたしの 野さい 11時間扱い 内容(7)(8) ・野さいを そだてよう(2) ・野さいの せわを しよう(3)			・野さいを しょうかくしよう(3)




10月	11月	12月	1月	2月	3月
<p>たのしさ いっぱい あき いっぱい</p> <p>15時間扱い</p> <p>内容(5)(6)(8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あきを さがそう (3) ・^なこえんで あきを さがそう (3) ・はっぱや みで あそぼう (3) ・かぜで あそぼう (3) ・みつけた あきを しょうかいしよう (3) 	<p>あきのおもちゃ だいしゅうごう</p> <p>9時間扱い</p> <p>内容(6)(8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あきのおもちゃを つくろう (6) ・みんなで あそぼう (3) 	<p>みんな いっしょに</p> <p>10時間扱い</p> <p>内容(2)(8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・じぶんの いちにちを ふりかえろう (2) ・いえの ひとと いっしょに しよう (2) ・じぶんで できる ことを しよう (3) ・ありがとうを とけよう (3) 	<p>ふゆを たのしもう</p> <p>12時間扱い</p> <p>内容(4)(5)(6)(8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そとで あそぼう (6) ・ふゆの こうえんに いこう(6) 	<p>もうすぐ 2ねんせい</p> <p>12時間扱い</p> <p>内容(8)(9)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あたらしい 1ねんせいを しょうたい しよう (3) ・あたらしい 1ねんせいと いっしょに あそぼう (3) ・あたらしい 1ねんせいを むかえる じゅんぴを しよう (3) ・もうすぐ 2ねんせい (3) 	

※ 小動物のお世話を続ける。

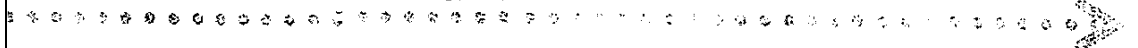


※ 発見的に球根等を扱い、秋や冬にもお世話ができるようにする。



10月	11月	12月	1月	2月	3月
<p>もっと なかよし まちたんけん</p> <p>12時間扱い</p> <p>内容(3)(5)(8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちたんけんの 計画を たてよう (3) ・まちの 人に 会いに 行こう (3) ・もっと まちの 人と なかよくなろう (3) ・なかよくなった 人の ことを しょうかいしよう (3) 	<p>聞いて 聞かせて まちの すてき</p> <p>10時間扱い</p> <p>内容(3)(4)(8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふりかえろう まちの すてきな できごと (3) ・まちの 人に つたえる じゅんぴを しよう (3) ・まちの すてきを つたえよう (4) 	<p>うごくうごく わたしの おもちゃ</p> <p>12時間扱い</p> <p>内容(6)(8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うごく おもちゃを つくろう (3) ・もっと くふうしよう (3) ・みんなで あそぼう (6) 	<p>冬を もっと 楽しもう ※ 札幌らしさ「雪」を意識し新設した単元</p> <p>9時間扱い</p> <p>内容(4)(5)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A. 雪まつりに行こう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雪まつりを見学に行く計画を立てる(3) ・雪まつり会場での活動(4) ・見学を振り返る(2) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>B. 地域の冬の行事にさんかしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事に行く計画を立てる(3) ・地域の行事に参加する(4) ・見学を振り返る(2) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>C. スノーフェスティバルを開こう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの雪まつりを計画する(2) ・雪まつりを開こう(5) ・活動を振り返る(2) </div>	<p>あしたへ ジャンプ</p> <p>18時間扱い</p> <p>内容(8)(9)</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・大きくなった 自分を ふりかえろう(3) ・すてきな ところを 教え合おう (2) ・大きくなった 自分を まとめよう(5) ・ありがとうを とけよう(5) ・すてきな 3年生に なろう(3) 	

※ 小動物のお世話を続ける。



・野さいの ことを つたえよう(2)

社会科におけるモビリティマネジメント

1 単元-1 履修～3年生 70時間

1. 3、4年生におけるモビリティマネジメント

○学年目標 「広げる」

観察、調査したり地図などを活用したりして身近な駅やバス停とその周りの様子を知り、自分の住んでいる市の様子を知るとともに、近隣の市との結び付きに気付くことができる。

○学習指導要領より

・3、4年生の内容

ア 身近な地域や市（区、町、村）の特色ある地形、土地利用の様子、主な公共施設などの場所と働き、交通の様子、古くから残る建造物などを観察、調査したり白地図にまとめたりして調べ、地域の様子は場所によって違いがあることを考えるようにする。

ここで取り上げる施設としては、例えば、…駅、…など、多くの市民が利用している施設が考えられる。

「交通の様子」を調べるとは、身近な地域や市で生活している人々などが利用している主な道路や鉄道などを取り上げ、観察、調査したり地図などを活用したりして、それらの名称や主な経路などを具体的に調べ、白地図に書き表すことである。

○学習例

3年生

私たちの町はどんな町なのだろう

・わたしたちのまちの地図をつくらう

↓
建物や場所の様子
町の人たちの様子
道路や駅の様子

・各区の夜間人口と昼間人口のデータ

どうして中央区は昼の人口が多いのかな

会社がたくさんあるのでは

デパートがある

札幌駅が中心なんじゃない

札幌駅に向かってバスや電車が走っているよ

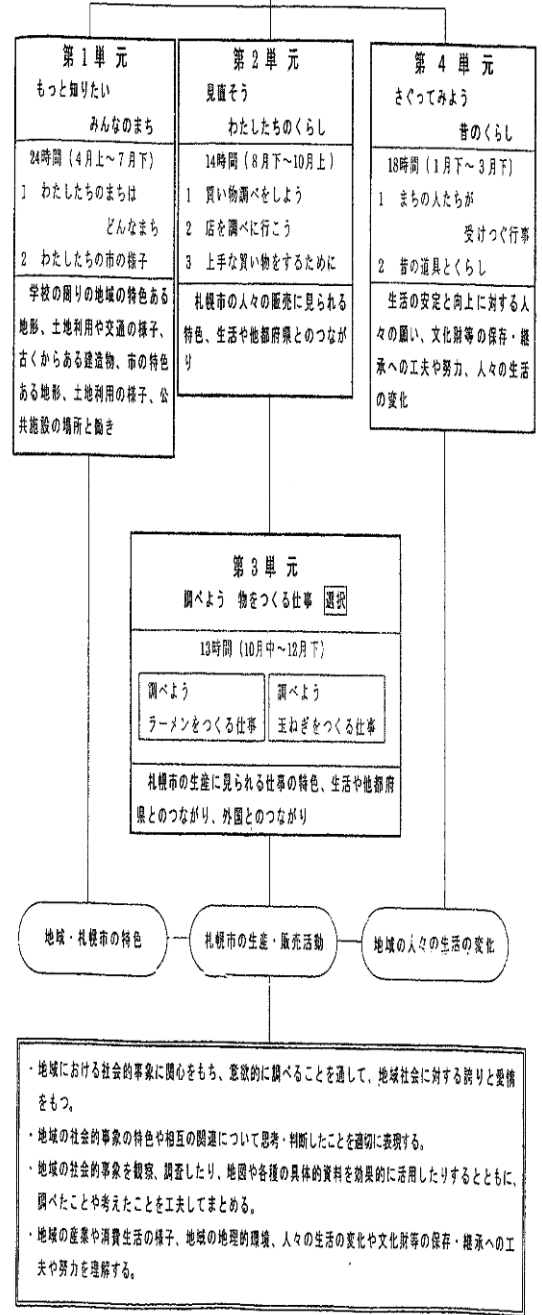
隣の市からも人が働きにきているよ

↓

札幌市を紹介するポスターをつくらう

学年オリエンテーション
1時間（4月上）
地域における社会的事象の観察・調査や各種資料の効果的な収集・活用・表現の方法

第2単元と第3単元については、見学期間などを考慮して、単元配列を例示している。各学校の実態に合わせて、教育課程に位置付ける。



社会科におけるモビリティマネジメント

7 単元一覧表～3年生 70時間

1. 3、4年生におけるモビリティマネジメント

○学年目標 「広げる」

観察、調査したり地図などを活用したりして身近な駅やバス停とその周りの様子を知り、自分の住んでいる市の様子を知るとともに、近隣の市との結び付きに気付くことができる。

○学習指導要領より

・3、4年生の内容

ア 身近な地域や市（区、町、村）の特色ある地形、土地利用の様子、主な公共施設などの場所と働き、交通の様子、古くから残る建造物などを観察、調査したり白地図にまとめたりして調べ、地域の様子は場所によって違いがあることを考えるようにする。

ここで取り上げる施設としては、例えば、…駅、…など、多くの市民が利用している施設が考えられる。

「交通の様子」を調べるとは、身近な地域や市で生活している人々などが利用している主な道路や鉄道などを取り上げ、観察、調査したり地図などを活用したりして、それらの名称や主な経路などを具体的に調べ、白地図に書き表すことである。

○学習例

3年生

私たちの町はどんな町なのだろう

・わたしたちのまちの地図をつくらう

↓
建物や場所の様子
町の人たちの様子
道路や駅の様子

↓
・各区の夜間人口と昼間人口のデータ

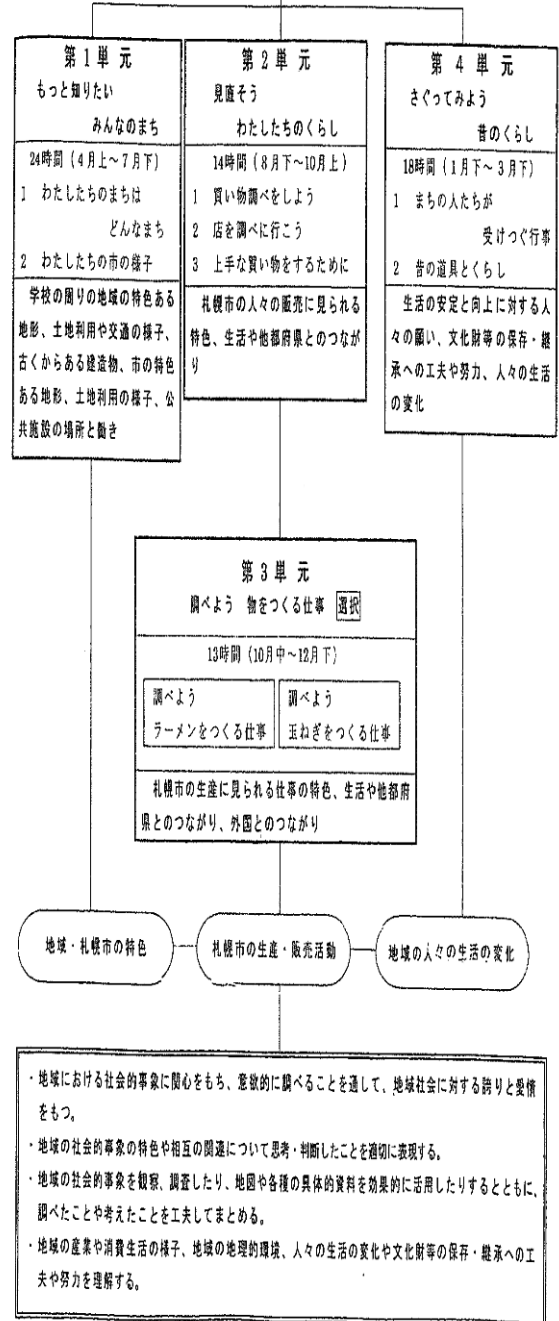
どうして中央区は昼の人口が多いのかな

会社がたくさんあるのでは
デパートがある
札幌駅が中心なんじゃない
札幌駅に向かってバスや電車が走っているよ
隣の市からも人が働きに来ているよ

↓
札幌市を紹介するポスターをつくらう

学年オリエンテーション
1時間（4月上）
地域における社会的事象の観察・調査や各種資料の効果的な収集・活用・表現の方法

第2単元と第3単元については、見学期間などを考慮して、単元配列を例示している。各学校の実態に合わせて、教育課程に位置付ける。



○学習指導要領より

・3、4年生の内容

イ 県(都、道、府)全体の地形や主な産業の概要、交通網の様子や主な都市の位置

ウ 県(都、道、府)内の特色ある地域の人々の生活

を観察、調査したり白地図にまとめたりして調べ、地域の様子は場所によって違いがあることを考えるようにする。

○学習例

4年生(1)

私たちの北海道の特徴は

・わたしたちの北海道の地図をつくらう

北海道の主な都市の位置

北海道の主な名産や名所

北海道は魚がたくさん取れる

昨日取れたサマが今日届くのはどうして

飛行機を使っているよ

高速道路があるからだよ

様々な工夫や努力によって新鮮なサマを食べることができるんだね

4年生(2) *総合的な学習の時間を使って

現地学習に行く方法を考えよう

水道記念館・下水科学館・青少年科学館に行くためには?

地下鉄があるよ

バスで行くと

*交通手段を比べ「CO₂の排出量」に注目させる

地下鉄やバスを使うとCO₂の排出量が随分と少ないんだね

青少年科学館など地下鉄を使用して現地学習に行く

地下鉄を使うことでCO₂の排出量を減らしたよ

この他にも地下鉄でどんなところに行けるのかな

一人ひとり、ちょっとずつ気を付けることが大事なんだね

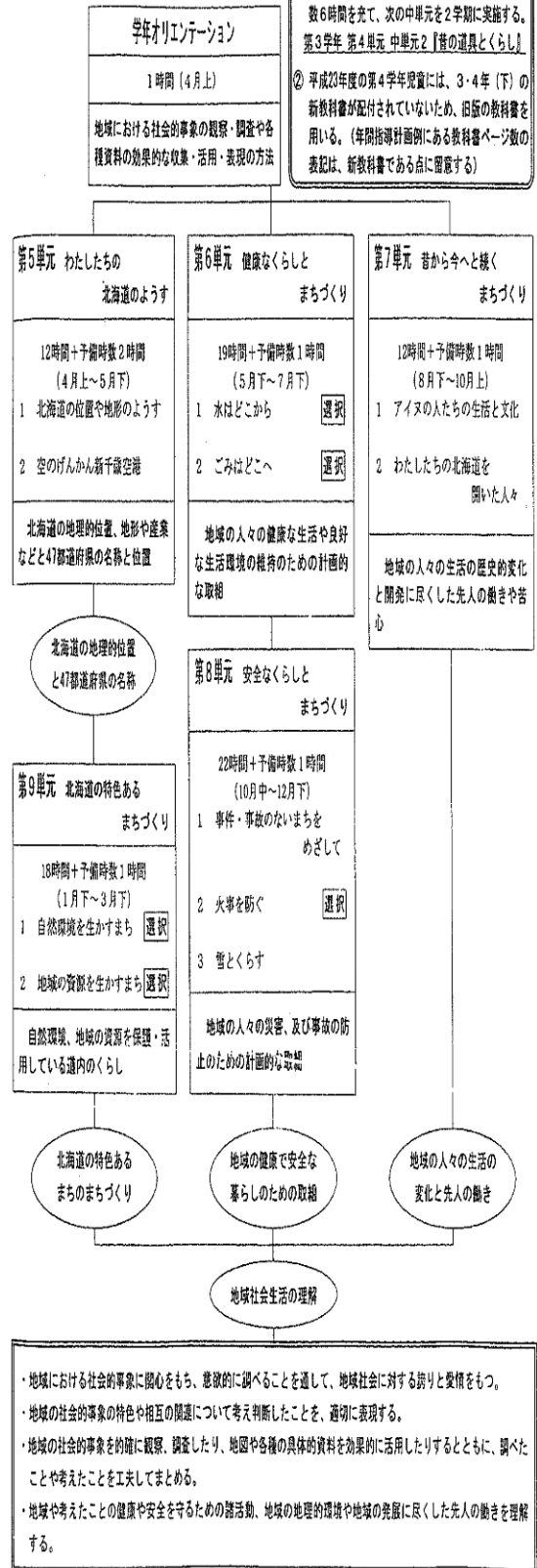
7 単元一覧表~4年生 90時間 (84時間+予備時数6時間)

※予備時数は、基礎・基本の確実な定着などに充てる。

平成23年度に当たっては、次の2点に留意する。

① 平成22年度に限り、未履修とならないように予備時数6時間を充て、次の中単元を2学期に実施する。
第3学年 第4単元 中単元2『昔の道具とくらし』

② 平成22年度の第4学年履修には、3・4年(下)の新教科書が配付されていないため、旧版の教科書を用いる。(年間指導計画にある教科書ページ数の表記は、新教科書である点に留意する)



○学習指導要領より

・3、4年生の内容

イ 県（都、道、府）全体の地形や主な産業の概要、交通網の様子や主な都市の位置

ウ 県（都、道、府）内の特色ある地域の人々の生活

を観察、調査したり自地図にまとめたりして調べ、地域の様子は場所によって違いがあることを考えるようにする。

○学習例

4年生（1）

私たちの北海道の特徴は

・わたしたちの北海道の地図をつくらう

北海道の主な都市の位置

北海道の主な名産や名所

北海道は魚がたくさん取れる

昨日食べたサマが今日届くのほどうして

飛行機を使っているよ

高速道路があるからだよ

様々な工夫や努力によって新鮮なサマを食べることができるんだね

4年生（2）＊総合的な学習の時間を使って

現地学習に行く方法を考えよう

水道記念館・下水科学館・青少年科学館に行くためには？

地下鉄があるよ

バスで行くと

＊交通すころくを思い、CO₂の排出量に注目させる

地下鉄やバスを使うとCO₂の排出量が随分と少ないんだね

青少年科学館など地下鉄を使用して現地学習に行く

地下鉄を使うことでCO₂の排出量を減らしたよ

この他にも地下鉄でどんなところに行けるのかな

一人ひとり、ちよつとずつ気を付けることが大事なんだね

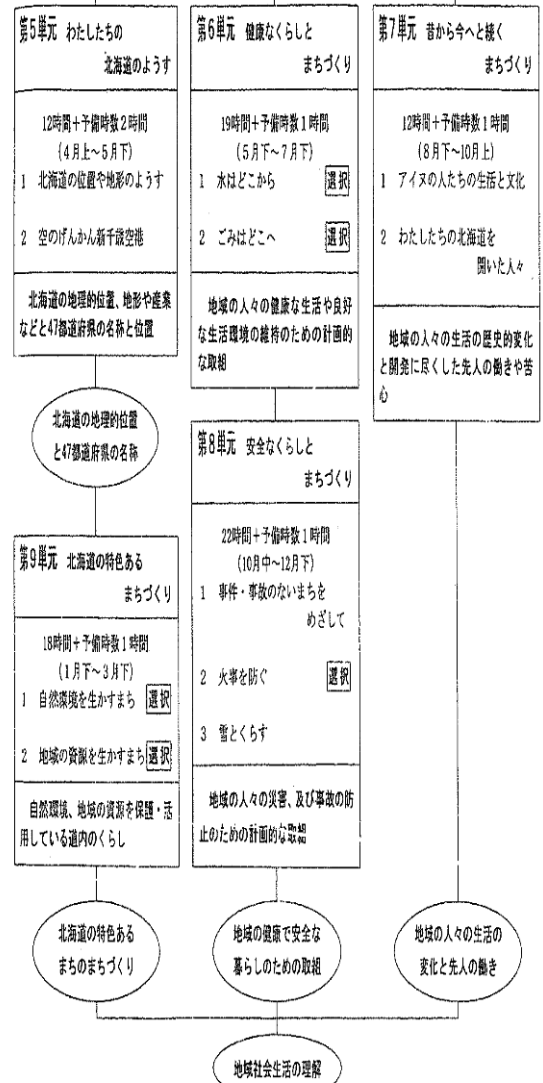
7 単元一覧表～4年生 90時間（84時間＋予備時数6時間）
※予備時数は、基礎・基本の確実な定着などに充てる。

平成23年度に当たっては、次の2点に留意する。

① 平成23年度に限り、未履修とならないように予備時数6時間を充て、次の単元を2学期に実施する。
第3学年 第4単元 単元2『昔の道具とくらし』

② 平成23年度の第4学年児童には、3・4年（下）の新教科書が配付されていないため、旧版の教科書を用いる。（年間指導計画例にある教科書ページ数の表記は、新教科書である点に留意する）

学年オリエンテーション	
1時間（4月上）	
地域における社会的事象の観察・調査や各種資料の効果的な収集・活用・表現の方法	



・地域における社会的事象に関心をもち、意欲的に調べることを通して、地域社会に対する誇りと愛情をもつ。
・地域の社会的事象の特色や相互の関連について考え判断したことを、適切に表現する。
・地域の社会的事象を的確に観察、調査したり、地図や各種の具体的な資料を効果的に活用したりするとともに、調べたことや考えたことを工夫してまとめる。
・地域や考えたことの健康や安全を守るための諸活動、地域の地理的環境や地域の発展に尽くした先人の働きを理解する。

2. 5年生におけるモビリティマネジメント

○学年目標 「深める」

調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして、仕事に従事している人々の工夫や努力、貿易や運輸などの働きに支えられて自動車が生産されていることや、自動車によって便利で快適な生活を送っていることを知り、これからの自動車の在り方を考える。

○学習指導要領より

・5年生の内容

ウ 食糧生産に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸の働きを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深い関わりをもって営まれていることを考えるようにする。

ア 様々な工業製品が国民生活を支えていること

イ 我が国の各種の工業生産や工業地域の分布など

ウ 工業生産に従事している人々の工夫や努力、工業生産を支える貿易や運輸などの働きを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考えるようにする。

○学習例

日本の工業製品を調べよう

車が有名だよ

電化製品もすごいじゃない

メイドインジャパンって品質がいいって評価されているよ

↓
世界に誇る日本の自動車はどのようにつくられているのかな

↓
つくられた車はどのようにして届くのだろうか

高速道路を使っているよ

船で運んでいるんだね

たくさん車をなるべく効率的に運んでいるんだね

↓
これからの自動車はどうなっていくのかな

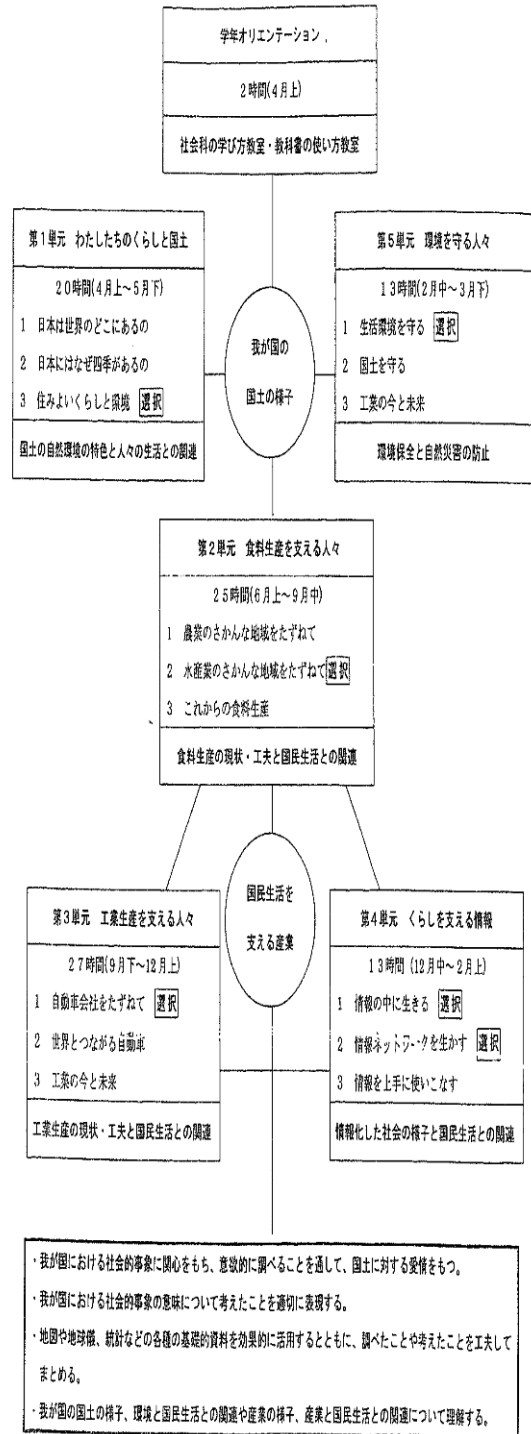
環境に優しい車が多くなってくるよ

お年寄りでも安心して運転できる車ができるといいね

自転車に乗る人や歩いている人にも優しい社会になればいいね

いつでもどこでも自家用車ではなく、環境に優しい移動手段を考えたいよね

7. 単元一覧表 100時間



2. 5年生におけるモビリティマネジメント

○学年目標 「深める」

調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして、仕事に従事している人々の工夫や努力、貿易や運輸などの働きに支えられて自動車が生産されていることや、自動車によって便利で快適な生活を送っていることを知り、これからの自動車の在り方を考える。

○学習指導要領より

・5年生の内容

ウ 食糧生産に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸の働きを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深いかかわりをもって営まれていることを考えるようにする。

ア 様々な工業製品が国民生活を支えていること

イ 我が国の各種の工業生産や工業地域の分布など

ウ 工業生産に従事している人々の工夫や努力、工業生産を支える貿易や運輸などの働きを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考えるようにする。

○学習例

日本の工業製品を調べよう

車が有名だよ

電化製品もすごいじゃない

メイドインジャパンって品質がいいって評価されているよ

↓
世界に誇る日本の自動車はどのようにつくられているのかな

↓
つくられた車はどのようにして届くのだろう

高速道路を使っているよ

船で運んでいるんだね

たくさん車をなるべく効率的に運んでいるんだね

↓
これからの自動車はどうなっていくのかな

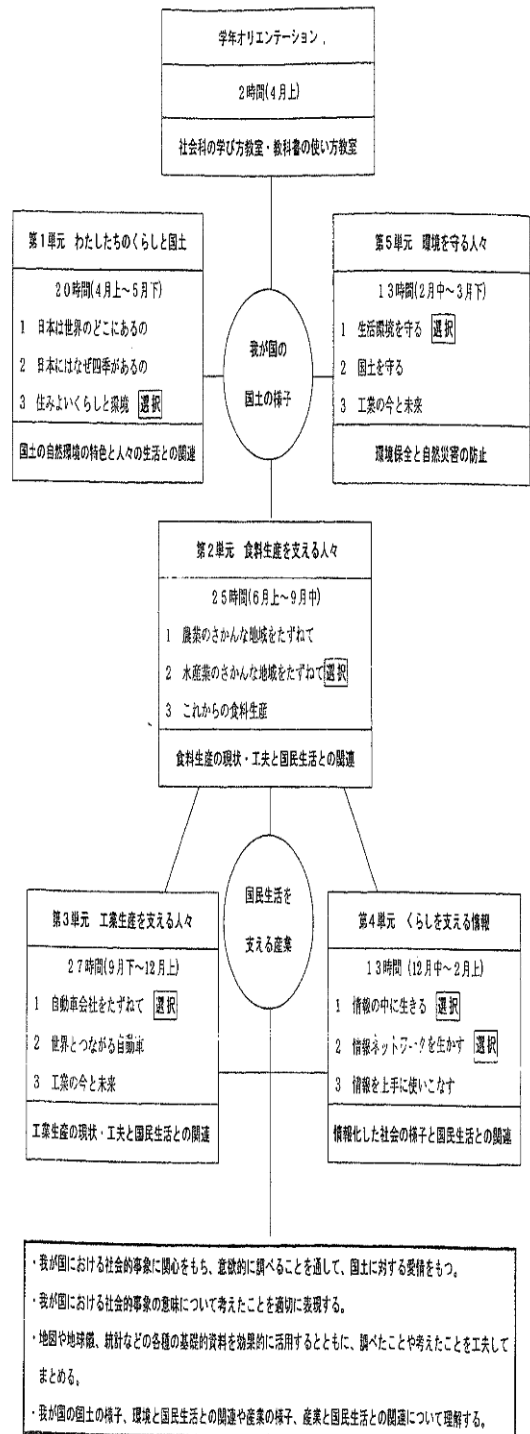
環境に優しい車が多くなってくるよ

お年寄りでも安心して運転できる車ができるっていいね

自転車に乗る人や歩いている人にも優しい社会になればいいね

いつでもどこでも自家用車ではなく、環境に優しい移動手段を考えたいね

7. 単元一覧表 (100時間)



3. 6年生におけるモビリティマネジメント

○学年目標 「まとめる」

調査したり資料を活用したりして、自分の生活には地方公共団体や国の政治が反映していることを知り、これからの公共交通の在り方を考える。

○学習指導要領より

・6年生の内容

ア 国民生活には地方公共団体や国の政治の働きが反映していることを調査したり資料を活用したりして調べ、国民主権と関連付けて政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていること、現在の我が国の民主政治は日本国憲法の基本的な考え方に基いていることを考えるようにする。

○学習例

税は何に使われているの

どうやって集めているの？

住民の願いは？

だれが使いつまを決めているの？

札幌市の借金は1兆8558億円 ⇔ バスを走らせるために毎年〇億円も

*平成22年度(札幌市HPより)

バス路線を残す意味があるのかな

まずは借金を減らさないよ

自分で運転ができればいいけれど

お年寄りや移動する手段がなくなるよ

私のお見ちゃんが冬はバスで高校に通っているよ

交通弱者にとって公共交通はとても大事なんだね

将来、自分も交通弱者になるからね

みんなが幸せに暮らせるために税金を使う必要があるんだね

学年オリエンテーション
1時間(4月上)
教科書の使い方を教える

人々の暮らしと歴史	
第1単元 大昔の暮らし 15時間(4月上~5月上)	第2単元 武士の世の中 2.5時間(5月中~8月)
オリエンテーション 1・国づくりへの歩み 2・大権に争んだ国づくり 単元のまとめ	オリエンテーション 1・武士の政治が始まる 2・室町文化と力をつける人々 3・全国統一への動き 4・幕府の政治と人々の成長 5・にぎわう都市、花開く文化 単元のまとめ
第3単元 近代国家への歩み 1.5時間(9月)	第4単元 戦争から平和へ 1.5時間(10月~11月上)
オリエンテーション 1・新しい時代の幕あけ 2・二つの戦争と日本・アジア 単元のまとめ	オリエンテーション 1・戦争と人々の暮らし 2・平和で豊かな暮らしをめざして 単元のまとめ

国家・社会の発展に大きな力をした先人の業績やすぐれた文化遺産

我が国の歴史認識と国民の一員としての自覚

第5単元 暮らしの中の政治 1.5時間(11月中~12月)	第6単元 日本と世界のつながり 1.8時間(1月~3月)
オリエンテーション 1・身近な暮らしと政治 2・憲法とわたしたちの暮らし 単元のまとめ	オリエンテーション 1・日本とつながりの深い国々 2・世界の人々とともに生きる 単元のまとめ
日常生活における政治の働きと日本国憲法の考え方	我が国と関係の深い国の様子や国際社会における我が国の役割

地域や日本の社会の一員、世界の中の日本人としての自覚

学年のまとめ
1時間(3月下)
社会科の学習をふりかえって

・我が国の歴史や政治、国際社会の社会的事象に関心をもち、国を愛する心情や日本人として世界の国々の人々と共に生きていこうとする自覚をもつ。
 ・社会的事象を多面的、総合的にとらえ、社会的事象の意味をより広い視野から考え、公正に判断し適切に表現する。
 ・社会的事象を具体的に調査するとともに、地図や地球儀、年表などの具体的資料を効果的に活用し工夫してまとめる。
 ・先人の業績や優れた文化遺産、政治の働きや考え方、国際社会における我が国の役割について理解を深める。

3. 6年生におけるモビリティマネジメント

○学年目標 「まとめる」

調査したり資料を活用したりして、自分の生活には地方公共団体や国の政治が反映していることを知り、これからの公共交通の在り方を考える。

○学習指導要領より

・6年生の内容

ア 国民生活には地方公共団体や国の政治の働きが反映していること

を調査したり資料を活用したりして調べ、国民生活と関連付けて政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていること、現在の我が国の民主政治は日本国憲法の基本的な考え方に基づいていることを考えるようにする。

○学習例

税は何に使われているの

どうやって集めているの？

住民の願いは？

だれが使っているの？



札幌市の借金は1兆8558億円 ⇔ バスを走らせるために毎年〇億円も

*平成22年度(札幌市HPより)

バス路線を廃す意味があるのかな

まずは借金を減らさないよ

自分で運転ができればいいけれど

お年寄りが移動する手段がなくなるよ

私のお兄ちゃんが冬はバスで高校に通っているよ



交通弱者にとって公共交通はとても大事なんだね

将来、自分も交通弱者になるからね



みんなが幸せに暮らせるために税金を使う必要があるんだね

学年オリエンテーション
1時間(4月上)
教科書の使い方教室

人々の暮らしと歴史	
第1単元 大昔の暮らし 15時間(4月上~5月上) オリエンテーション 1・国づくりへの歩み 2・大艦に学んだ国づくり 単元のまとめ	第2単元 武士の世の中 25時間(5月中~8月) オリエンテーション 1・武士の政治が始まる 2・室町文化と力をつける人々 3・全国統一への動き 4・幕府の政治と人々の成長 5・にぎわう都市、花開く文化 単元のまとめ
第3単元 近代国家への歩み 15時間(9月) オリエンテーション 1・新しい時代の幕あけ 2・二つの戦争と日本・アジア 単元のまとめ	第4単元 戦争から平和へ 15時間(10月~11月上) オリエンテーション 1・戦争と人々の暮らし 2・平和で豊かな暮らしをめざして 単元のまとめ

国家・社会の発展に大きなはたらきをした先人の業績やすぐれた文化遺産

我が国の歴史認識と国民の一員としての自覚

第5単元 暮らしの中の政治 15時間(11月中~12月) オリエンテーション 1・身近な暮らしと政治 2・憲法とわたしたちの暮らし 単元のまとめ 日常生活における政治の働きと日本国憲法の考え方	第6単元 日本と世界のつながり 18時間(1月~3月) オリエンテーション 1・日本とつながりの深い国々 2・世界の人々とともに生きる 単元のまとめ 我が国と関係の深い国の様子や国際社会における我が国の役割
---	--

地域や日本の社会の一員、世界の中の日本人としての自覚

学年のまとめ
1時間(3月下)
社会科の学習をふりかえって

- ・我が国の歴史や政治、国際社会の社会的事象に関心をもち、国を愛する心情や日本人として世界の国々の人々と共に生きていこうとする自覚をもつ。
- ・社会的事象を多面的、総合的にとらえ、社会的事象の意味をより広い視野から考え、公正に判断し適切に表現する。
- ・社会的事象を具体的に調査するとともに、地図や地球儀、年表などの具体的な資料を効果的に活用し工夫してまとめる。
- ・先人の業績や優れた文化遺産、政治の働きや考え方、国際社会における我が国の役割について理解を深める。

3-2 社会科における交通環境学習の検討

(1)3年生における交通環境学習の検討

3年生における交通環境学習については、札幌市立円山小学校向坊紫織先生に検討いただいた。札幌市には他の地域に比べ、JR/地下鉄/市電/バスなど様々なモビリティが存在することを背景とし、公共交通機関が市民の生活を豊かにしている点から、札幌市をより、知ることに繋げていくことを学習の視点として、提案いただいた。

また、向坊先生に検討いただいた具体的な資料については、下記及び次ページ以降に掲載する。

2011年12月19日(月)

円山小学校 向坊 紫織

札幌らしい交通環境学習検討委員会ワーキンググループ

第3学年 学習指導案

単元名 第1単元「もっと知りたい みんなのまち」

～中単元2「わたしたちの市の様子」～(実施時期6～7月)

○指導要領とのかかわりについて

本単元の内容を指導要領では、「自分たちの住んでいる身近な地域や市について学習する際に、地域の様子は場所によって違いがあることを考える手掛かりとして、…交通の様子…などを調べる対象として挙げている。」とある。札幌市には他の地域に比べ、JR、地下鉄、市電、バスと様々な公共交通機関があり、本数路線数も充実している。そして、その公共交通機関が市民の生活を豊かにしている。その公共交通機関について学習することは札幌市の特徴を学ぶ上で大切な要素の一つになると考える。

○本時について

第3学年という段階を考えて、バスの良いところに目を向けさせるようにした。様々な公共交通機関がある中で、路線数が圧倒的に多いのは、バスである。その理由を、普段の生活や、既習である札幌市の様子と絡めながら考えることで、自分たちの生活が便利になっている事に気付かせていく。また、バスの時刻表を提示することで、毎日いつでもバスを利用することができる現状に気付くことができると思う。

○ほしいと思った資料

・バス路線図

補助資料「わたしたちの札幌」の札幌地図には、JR、地下鉄、市電の路線図が載っている。そこで、全てのバス(じょうてつ、中央、JR、ばんけい)の路線図が表れている地図があると、その圧倒的な路線数の多さを実感できると考える。

○学習展開

(1) 目標

・バス路線数の多さの背景を探ることで、札幌市に住む様々な立場の人がいつでも様々な目的をもってバスを利用することができるというバスの利点に気付くことができる。

(2) 展開 (6/8時間)

学習展開・児童の思考の流れ	留意点
<p data-bbox="304 510 1002 600" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"><前時まで> 札幌市には、様々な公共交通機関があり、それを利用して公共施設へ行けることを学んでいる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p data-bbox="252 622 411 719">中島公園へは地下鉄で行けたね。</p> <p data-bbox="252 745 411 842">中央図書館へは市電を使うといいね</p> </div> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p data-bbox="443 629 746 656">わたしたちの札幌付属地図</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p data-bbox="794 629 1098 656">地図から数えてみよう。</p> <p data-bbox="794 685 1002 712">それぞれの路線数</p> <p data-bbox="794 730 975 757">市電 1路線</p> <p data-bbox="794 775 975 801">地下鉄 3路線</p> <p data-bbox="1010 730 1098 801" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">バスは…?</p> </div> </div> <p data-bbox="794 824 1034 891" style="text-align: center; font-size: 24px; font-weight: bold;">383路線!</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p data-bbox="308 913 1007 940">なぜ札幌市にはこんなにたくさんのバス路線があるのだろうか？</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p data-bbox="252 969 539 1014" style="font-size: 24px; font-weight: bold;">みんなが使える</p> <p data-bbox="260 1025 515 1227"> 近くに地下鉄がない人 お年寄り 車のない人 子ども 札幌のはじめに住む人 </p> </div> <div style="width: 10%; text-align: center; font-size: 48px; font-weight: bold;">便利</div> <div style="width: 45%;"> <p data-bbox="802 969 1090 1014" style="font-size: 24px; font-weight: bold;">どこへでも行ける</p> <p data-bbox="834 1025 1058 1227"> とりのまちへ行く 買い物へ 会社や学校へ 習い事へ 地下鉄に乗り継げる </p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p data-bbox="252 1283 643 1720"> 07時 ①45 ①55 08時 ①05 ①15 ①20 ①30 ①35 ①45 ①50 09時 00 05 15 25 35 45 10時 00 05 09 20 35 45 11時 00 05 09 20 35 45 12時 00 05 15 25 35 55 13時 00 05 15 25 35 45 14時 00 05 15 25 35 45 55 15時 05 15 25 35 50 55 16時 10 20 25 35 41 48 17時 00 05 15 25 35 45 55 18時 05 15 25 35 45 55 19時 ②05 ②11 ②20 ②25 ②35 ②45 ②55 20時 ③10 ③25 ③50 21時 ③20 ③55 22時 ③10 ③32 23時 ③00 </p> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <p data-bbox="715 1301 1018 1328" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">バスの時刻表を見てみよう</p> <p data-bbox="707 1361 906 1429" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1日でたくさんのバスが走っているね</p> <p data-bbox="707 1485 906 1552" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">朝早くから夜遅くまで走っているんだ</p> <p data-bbox="707 1597 906 1664" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">バスが多い時間と少ない時間があるね</p> <p data-bbox="754 1664 1050 1720" style="font-size: 24px; font-weight: bold;">いつでも使える</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p data-bbox="276 1753 1058 1780">私たちの生活が便利になるようにたくさんのバスが走っているんだね。</p> </div>	<p data-bbox="1129 495 1369 1077">○市電や地下鉄の路線数を地図を使って確認をした後に、地図にはないバスの路線数を提示する。前者との違いを明確に提示することで、バスの路線数の多さの背景を探りたいという問題意識を生むようにする。(札幌市のバス路線が描かれた地図があるといいなと思いました)</p> <p data-bbox="1129 1093 1369 1417">○既習の札幌市の特徴(広い、人口が多いなど)を生かしながら考えることで、「誰でも」「どこへでも」行けるというバスの良さに気付いていけるようにする</p> <p data-bbox="1129 1473 1369 1720">○バスの時刻表を提示することで、さらに「いつでも」使えるという新たな視点に気付く、バスの良さを実感できるようにする。</p>

(2) 4年生における交通環境学習の検討

4年生における交通環境学習については、札幌市立山の手南小学校栗原聡太郎先生に検討いただいた。札幌市の積雪寒冷地域の特性を踏まえ、雪・除雪をキーワードとした交通環境学習について提案いただいた。なお、栗原先生に検討いただいた具体的な資料については、下記に掲載する。

札幌らしさを生かした指導展開例

冬道が引き起こす問題から、除排雪に対する市民と市役所とのかかわりについて考える授業			
中単元名	雪とくらす	5/5時間	12月

《単元のねらい》地域社会における雪対策について調査したり、資料を活用したりして調べ、大雪から生活や安全を守るための関係諸機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考えられるようにする。

《中単元の評価基準》

- ①大雪から生活や安全を守る工夫や努力に関心をもち、意欲的に調べている。
- ②大雪から生活や安全を守るための関係諸機関の働きや、地域の人々の工夫や努力を、地域の人々の生活と関連付けて考え、適切に表現している。
- ③地域社会における雪対策について調査したり、資料を活用したりして、大雪から生活や安全を守るための諸活動の様子について必要な情報を集め、読み取っている。
- ④大雪から生活や安全を守るために、関係諸機関が相互に連携して、緊急に対処する体制をとっていることを理解する。

《本時の目標》

冬道が引き起こす様々な問題に気付き、その解決には市民と市役所が共に協力し合いながら取り組むことが大切であることが分かる。

《本時の展開例》

学習内容・活動等	留意点
<p>副読本「わたしたちの札幌」だけでなく、市役所制作の「パパは雪だるま！」を活用したり、雪対策室のホームページや雪探検館などを活用したい。</p> <p>迷惑駐車や道路への雪投げなどの除雪を妨げる市民の問題を提示し、自助・共助の必要性に気付かせる。</p>	<p>夏と冬の道路の写真を提示し、冬道が引き起こす問題を考えさせることで、問題意識を高める。</p> <p>既習や、子どもの生活経験を引き出し、市役所・市民がそれぞれにできることを考えさせる、互いの協力で除雪が成り立つことに気付かせる。</p> <p>自助・共助による利点を環境や公共の利益などの視点から考えさせることで、社会参画意識を高める。</p>
<p>【前時まで】札幌市の除排雪システムについて調べ、関係諸機関の働きについて理解している。</p> <p>夏の道路 ↔ 冬の道路 雪がたまるとどんなことが起こる？</p> <p>事故が増える 渋滞になる Co2が増える</p> <p>冬道でも市民みんなが安心して道路を利用するためにはどうすればよいのだろうか？</p> <p>【市役所】 ・除排雪する ・夜中に除排雪 ・計画を立てて</p> <p>【市民】 ・ルールを守る ・自分たちで除雪 ・車利用を控える</p> <p>力を合わせ 雪と戦う</p> <p>よいことは市役所や市民にとってだけかな？</p> <p>バス会社も鉄道会社も利用が増えるよ Co2も減るから地球にも優しいよ</p> <p>市役所も市民も共に協力すれば、冬道も安全に使うことができるね。</p>	<p>夏と冬の道路の写真正体は、札幌市役所発行の「冬のくらしガイド」を活用し、夏の道路幅と冬の道と幅との比較から問題意識を高める</p> <p>持続可能な社会の実現のために、公共交通機関を使い、環境負荷の軽減や渋滞の緩和ができることにも気付かせたい。</p>

(3) 6年生における交通環境学習の検討

6年生における交通環境学習については、札幌市立本通小学校河嶋一貴先生に検討いただいた。6年生は政治単元であることから、公共交通とそれに関わる補助金をキーワードとした交通環境学習について提案いただいた。なお、河嶋先生に検討いただいた具体的な資料については、下記に掲載する。

札幌らしい交通環境学習WGレポート

6年・政治単元におけるMM教育の可能性を探る

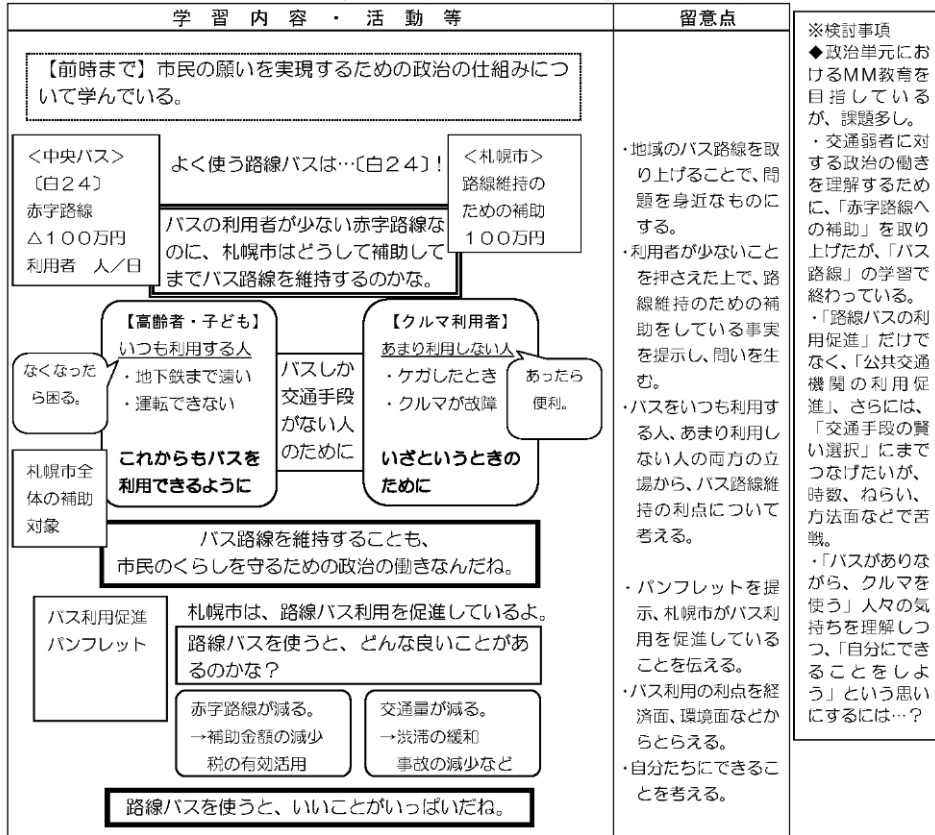
本通小 河嶋 一貴

1. 戦略 ～「手引き入り」を目指す
・学習指導要領 ・教科書 ・どの学校でも実践可能
2. 政治単元とMM教育
政治単元のキーワード：国民生活の安定と向上→安定：持続可能な交通手段 向上：賢い交通手段の選択
「行政、交通事業者、市民の協働関係の構築」がメイン。
3. 教科書の展開、単元構成 ～6年下・中単元1 身近な暮らしと政治

時	ページ	タイトル	学習内容	キーワード
0	P2	まちの公共施設を調べよう	オリエン「すみよい社会の仕組みは、だれがどうやって決めているのかな？」	公共施設
1	P4	安全で安心な放課後に	「新BOP」に対する人々の願い	人々の願い
2	P6	子どもは未来への希望	「新BOP」ができるまで	区役所 条例
3	P8	だれもが住みよいまちを目指して	高齢者、障害者を支援する取り組み 自然をいかしたまちづくり	区の説明会 住民の参加
4	P10	みんなの願いを実現させるために	区議会、区長の仕事、 政治の働き～コミュニティバス	予算、選挙 政治の仕組み
5	P12	税金のはたらきとわたしたちの暮らし	税金のはたらき	税金

↑ MMで取り上げられそうなのは、ここか？

4. 本時案（4時間目／5時間扱い）
目標：利用者が少ないバス路線に対し補助を出してまで維持するのは、「バス以外の交通手段がない人のため」であることをとらえるとともに、札幌市がバス利用を促進している事実から、その利点を考える。



第4章 交通環境学習の実施

4-1 交通環境学習の実施

4-1-1 交通環境学習の実施概要

今年度の交通環境学習の実践においては、5章にて詳述するワーキンググループの中で、実施学年・実施教科を検討し、その結果、札幌市立屯田小学校の斉藤健一先生を授業者として社会科（単元：：くらしを支える情報～情報ネットワークを生かす～）研究授業を実践することが決定した。研究授業の概要について以下に整理するとともに、授業の様子を写真 4-1に示す。

【交通環境学習実践概要】

- 実施日：平成24年2月8日(水)5 時間目
- 実施校：札幌市立屯田小学校
- 対象学年：5年生(1クラス)
- 授業者：斉藤 健一 先生
- 教科：社会科
- 単元：くらしを支える情報 ～情報ネットワークを生かす～



写真 4-1 交通環境学習の実施の様子

4-1-2 指導案

研究授業の授業者である屯田小学校の齊藤健一先生に検討・作成いただき、ワーキンググループメンバーからの意見についても反映した指導案について、以下に示す。

公共交通	社会	平成24年2月8日 5年1組 (男19 女18 計37名)	齊藤 健一	くらしを支える情報 ～情報ネットワークを生かす～
------	----	--	-------	-----------------------------

【くらしを支える情報の単元構造】

溢れる情報の中で…

テレビ

新聞

ラジオ

自分

インターネット

携帯電話

本・雑誌

【児童の実態と身につけさせたい力】

～社会的事象を自分事として考え、社会に参画しようとする力～

日常生活の中で毎日見ているテレビ。子どもたちはそのテレビからたくさんの情報を得ている。しかし、ニュース番組や情報番組がどのように作られているかは知らない。

また、急速に普及しているインターネット。子どもたちは家庭や学校で利用することも多い。しかし、テレビ番組と同じように通信の仕組みや社会的役割については、まったくと言っていいほど意識していない。

そこで、本単元では、

- ① 情報ネットワークの仕組みを学ぶ
- ② 情報ネットワークと国民生活とのかかわりを学ぶ
- ③ 情報ネットワークを活用する

というような三つのユニットを構成し、社会の一員として情報化社会の中で生きていける力を育てていく。

大切なことは、情報を発信する側に求められる役割や責任の大きさを知り、情報を受け取る側の正しい判断の必要性に気づき、情報の有効な活用ができるようになることである。

問いを共有し、響き合いが生まれる学び

<p style="text-align: center; background-color: #333; color: white; padding: 5px;">問いを共有する姿</p> <p>【意外と知られていない!?】</p> <p>前時までにさっぽろえきバスnaviのよさを十分に感じている子どもたちが、30%の市民にしか知られていない現状を知り、バスの利用者が30年間で50%も減っているという事実に出会う。未来のことを考えると、「このままではバスがなくなるのでは!?」という思いが膨らむ。</p> <p>バスがない社会を考えると、子どもは危機感をもつだろう。そこで、「バスの利用を増やすには、どうすればいいのだろうか?」という問いを生ませる。</p> <p>【さっぽろえきバスnaviの役割は?】</p> <p>さっぽろえきバスnaviを知らない70%の市民が知ることによって、どのような影響があるかを考えていく。バスを利用しやすくなり、移動手段の選択肢を広げたりする可能性があることに気付けば、さっぽろえきバスnaviが市民生活を向上させていることがわかるはずである。</p>	<div style="border: 1px solid gray; padding: 10px; background-color: #eee; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p style="font-size: 0.8em;"><本時のポイント></p> <p style="font-size: 1.2em; font-weight: bold;">自動車から バスへ!</p> <p style="font-size: 1.2em; font-weight: bold;">市民の意識を変える さっぽろえきバスnavi</p> </div>	<p style="text-align: center; background-color: #333; color: white; padding: 5px;">響き合う姿</p> <p>【バスの利用を増やす方策を考えることで…】</p> <p>子どもは、新聞記事や資料から、公共交通を支える市民の意識が大切なことに気付く。バスの減便や廃線を他人事ではなく、市民の一人として、意識を高め考える姿を期待する。マイカー社会は持続しない。今後、高齢者が増えていく中、持続可能な社会を支える公共交通の価値が見直されていくだろう。</p> <p>【さっぽろえきバスnaviをきっかけに…】</p> <p>さっぽろえきバスnaviの利用者が増え、現在よりも周知されれば、バスの利用者が増えるはずである。自動車で行こうかバスで行こうか迷って、結局、自動車を選擇していた人がさっぽろえきバスnaviを知ることでバスを選擇する機会が増えるかもしれない。</p> <p>よりよい社会や地球環境を考えた時、公共交通の役割は重要である。ネットワークの発達が市民生活を向上させ、公共交通の維持につながることに子どもは気付いていく。</p>
--	---	--

図 4-1 指導案①

＜単元の目標・活動の構成＞

○自分たちの生活と情報とのかかわりに関心をもち、意欲的に調べている。(関心・意欲・態度) ○国民生活と情報化した社会とのか
○資料やインターネットを活用して必要な情報を集め、それらを読み取り、ノートやレポートにまとめている。(技能) ○情報ネット

	1	2・3	4・5	6		
目標	自分たちの生活と情報とのかかわりに関心をもち、意欲的に調べたり、考えたりする。	国民生活とテレビ放送とのかかわりに関心をもち、意欲的に調べたり、表現したりする。	国民生活と新聞報道とのかかわりに関心をもち、意欲的に調べたり、表現したりする。	情報ネットワークに関心をもち、その働きが公共サービスの向上にどのように利用されているかを考え、適切に表現する。		
学習展開	<p align="center">情報ネットワークの仕組みを学ぶ！</p> <p>◆オリエンテーション◆ 暮らしを支える情報とは？ ○単元名から学習を想起 ○国語辞典を使って調べる</p> <p>↓ 情報を得る手段は？ ・テレビ ・新聞 ・ラジオ ・インターネット ・雑誌 ・携帯電話</p> <p>どんな情報を得ているの？ ・ニュース ・天気予報 ・品物の情報 など</p> <p>情報を伝える手段の歴史は？ 昔 → のろし&使者 江戸時代 → 飛脚 明治時代 → 電話 現代 → さまざまな手段がある</p> <p align="center">現代の情報は大量に速く正確に伝わる！</p>			<p>◆テレビ放送◆ テレビのニュースはどのように制作されているのだろうか？</p> <p>「より速く・正確に・わかりやすく」わたしたちの暮らしはテレビ放送によってどのような影響を受けているのかな？</p> <p>世界中の情報を知る！ 買いたい物を決める！</p> <p>たくさんの人のかわりを通してテレビのニュースは作られているんだね。</p>	<p>◆新聞報道◆ 新聞はどのようにして作られているのだろうか？</p> <p>「速く・正確に・よりわかりやすく」わたしたちの暮らしは新聞報道によってどのような影響を受けているのかな？</p> <p>多くの出来事を知る！ 幅広い情報を得る！</p> <p>読んで考える 人の考えを知る</p> <p>たくさんの人のかわりを通して新聞は作られているんだね。</p>	<p align="center">情報ネット</p> <p>◆情報化と医療①◆ 医療とインターネットはどのようなかわりがあるのだろうか？</p> <p>★遠隔医療★ ・直接病院に行かなくても、診断や指示ができる。 ・離島や山間部の人も高度な医療を受けられる。</p> <p>★電子カルテ★ ・総合病院と診療所で情報を共有できる。</p> <p align="center">画期的なシステムだ！</p> <p>平仮名で印刷が受け放題 生体電位印刷になっている！</p> <p>医療にもインターネットが有効活用されているんだね！</p>
	子どもの姿	<p>【問いを共有する姿】</p> <p>◇自分の生活と情報とのかかわりに関心をもつ。 ◇情報を伝える手段の歴史に関心をもつ。</p> <p>【響き合う姿】</p> <p>◆自分の生活がたくさんの情報によって支えられていることに気づき、心をふるわせる。</p>	<p>◇テレビのニュース制作に関心をもち、意欲的に調べる。 ◇テレビ放送が国民生活に与える影響を進んで考える。</p> <p>◆テレビ放送のよさに気づき、それが社会にどのような影響を与えているのかを考え、表現する。</p>	<p>◇新聞の記事制作に関心をもち、意欲的に調べる。 ◇新聞記事が国民生活に与える影響を進んで考える。</p> <p>◆新聞のよさに気づき、それが社会にどのような影響を与えているのかを考え、表現する。</p>	<p>【問いを共有する姿】</p> <p>◇医療とインターネットの関係に関心をもつ。 ◇遠隔医療や電子カルテのよさを追究する。</p> <p>【響き合う姿】</p> <p>◆医療にも、インターネットが有効活用されていることを知り、情報ネットワークの社会的役割に気づく。</p>	
板書計画等	<p>2/13 【ニュースの制作】 授業後板書</p>		<p>5/13 【新聞の役割】 授業後板書</p>			

図 4-2 指導案②

かかわりについて考え、わかりやすく表現している。(思考・判断・表現)

・ワークが国民生活を向上させていることやそれらを有効に活用することの大切さを理解している。(知識・理解)

7 (校内研究授業)	8・9	10 (本時)	11・12・13
<p>情報ネットワークの働きと国民生活とのかかわりについて考え、情報化の進展によって人々の生活の向上が図られていることがわかる。</p>	<p>情報ネットワークの働きが公共交通機関の利用促進に役立っていることがわかる。</p>	<p>さっぽろえきバスnaviを通して、情報ネットワークの働きと国民生活とのかかわりについて考え、情報化の進展によって人々の生活の向上が図られていることがわかる。</p>	<p>情報の有効な活用が大切であることに気づき、情報ネットワークの長所や短所をわかりやすく表現している。</p>
<p>ワークと国民生活とのかかわりを学ぶ！</p>			
<p>◆情報化と医療②◆</p> <p>「Ticket システムって何だろう？」</p> <p>携帯用ICカードのICチップで受付ができる！</p> <p>インターネットを活用した予約システム！</p> <p>病院と患者さんをつなぐ！</p> <p>病院に行きやすくする！</p> <p>日本人の健康を守る役割もある！</p> <p>病院にも患者さんにもメリットがあって、日本人の健康を守る役割を果たしている！</p>	<p>◆情報化と公共交通①&②◆</p> <p>公共交通機関って何だろう？</p> <p>バス 地下鉄 JR・市電</p> <p>最近バスに乗りました？(感想)</p> <p>自分たちも、さっぽろえきバスnaviを使おう！</p> <p>便利になるし、のびのびに乗りたいからさっ！</p> <p>バスにはメリットとデメリットがある</p> <p>バスがもっと活用しやすくなるかな？</p> <p>行き先までの乗り換えがわかる！</p> <p>時間や料金がわかる</p> <p>★さっぽろえきバスnaviを使ってみよう</p> <p>さっぽろえきバスnaviを使うと、公共交通機関が利用しやすくなるね！</p>	<p>◆情報化と公共交通③◆</p> <p>バスの利用を増やすにはどうすればいいのだろうか？</p> <p>自動車の利用を減らす バスのよさを知る</p> <p>さっぽろえきバスnaviを広める</p> <p>さっぽろえきバスnaviを一人でも多くの市民が知ると？</p> <p>意識が変わる！バスに乗ってみよう！</p> <p>さっぽろえきバスnaviを広めることで、公共交通機関が利用しやすくなり、市民の意識が変われば、バス利用が増える！</p>	<p>◆情報の活用◆</p> <p>たくさんのお情報を使いこなすにはどのようにすればいいのだろうか？</p> <p>インターネット(PC/携帯)</p> <p>【よい点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○メールで遠くの人と交流 ○画像や音声を取り出せる ○いつでもどこでも使える ○手軽に買い物ができる <p>【悪い点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●トラブルや犯罪 ●コンピューターウイルス ●誹謗・中傷 ※個人情報 ※報道被害 <p>を知ろう</p> <p>情報ネットワークのよい点と悪い点をしっかりと考えながら使うことが大切だね！</p>
<p>◇「Ticket システムに興味をもち、それがどんなシステムなのかを調べようとする。</p>	<p>◇さっぽろえきバスnaviに関心をもち、それがどんなシステムなのかを調べようとする。</p>	<p>◇公共交通機関の利用率を表したグラフ及びバスの現状を知らせる新聞記事を見てバス利用の減少に危機感をもつ。</p>	<p>◇発展した情報ネットワークに興味をもち、積極的に利用しようとする。</p> <p>◇注意点も考えようとする。</p>
<p>◆「Ticket システムが人と医療を結び付けていることに気づき、社会に役立つシステムであることがわかる。</p>	<p>◆さっぽろえきバスnaviを活用すれば、公共交通機関が利用しやすくなることに気付く。</p>	<p>◆札幌市民の意識の変化が大切であり、さっぽろえきバスnaviがその役割を果たす可能性があることに気付く。</p>	<p>◆インターネットの良い点だけでなく悪い点にも意識を向け、よりよい利用の仕方を身に付けようとする。</p>
<p>7/13 【情報化と医療】授業後板書</p>	<p>「本時で使う主な資料」</p> 		

図 4-3 指導案③


○さっぽろえきバス navi を通して、情報ネットワークの働きと国民生活とのかかわりについて考え、情報化の進展によって人々の生活の向上が図られていることがわかる。(社会的な思考・判断・表現/知識・理解)

問いを共有し、響き合いが生まれる学習


(前時まで) 自分の生活と公共交通機関の関係を考え、さっぽろえきバス navi を使うと公共交通機関の利用がしやすくなることに気付いている。

【問いを共有する姿】

さっぽろえきバス navi の利用率を知り、システムのよさと矛盾する結果に疑問をもつ。



札幌市内輸送機関 別乗車人員



公共交通機関の利用率を表したグラフ及びバスの現状を知らせる新聞記事を見てバス利用の減少に危機感をもつ。

さっぽろえきバス navi のよさは？

- ・時刻がわかる！
- ・乗り換えがわかる！
- ・料金がわかる！
- ・停留所がわかる！
- ・札幌市内どこにでも公共交通機関で行くことができる。

さっぽろえきバス navi を使うと、公共交通機関が使いやすくなる！

しかし…

えきバス navi は便利ではあるのに、バスの利用者は 30 年で 50% も減っている…

このままではバスが赤字で、廃止になってしまいう路線も…

13000 人使っていても札幌市の人口は 190 万人だから意外と知られていない？

【教師のかかわり】

前時を想起させ、さっぽろえきバス navi のよさを深き彫りにする。

公共交通機関の利用率を表したグラフ及び新聞記事を提示して問いを生む。

バスの利用を増やすには、どうすればいいのだろう？

バスのよさを伝える

- ・安全で安心できる乗り物
- ・低床バスもある
- ・安い料手で速くまで！
- ・環境にやさしい！
- ・誰でも乗れる！
- ・札幌市内どこでも行ける

さっぽろえきバス navi を広める

- ・ポスターでお知らせ！
- ・パンフレット
- ・広報誌で P R

バスのよさを知り、利用する

- ・自動車の利用を減らす
- ・札幌ドームや市内中心部へ行くときは公共交通で！

- ・自分だけではなく、市民全員のことを考えて行動する
- ・バスを利用→赤字路線を支える

自動車と公共交通をバランスよく使い分ける！

自動車の利用を一回だけでもバスに変えてみよう！

意識が変わる!!

自分も含めた仲間も

利用が増えると、公共交通がもっと身近になる。

バスを利用しやすくする！！行き方がいづつも分かる！！

市民一人一人の意識が変われば、バスの利用が増える！さっぽろえきバス navi はそのきっかけになりそうだね！

立場ごとに分けて板書し、まとめる。

交通環境学習を網羅する。

えきバス navi に焦点化社会科の学習のねらいに迫っていく。

認知度が低い事実から、さっぽろえきバス navi に焦点を当て、その役割や価値に気付かせていく。

本時のまとめ、ふり返りをさせる。



図 4-4 指導案④

4-2 交通環境学習実施後の意見交換会の開催

4-2-1 交通環境学習実施後の意見交換会の開催概要

前節に記述した交通環境学習実施後にワーキンググループメンバーや札幌市内小学校教諭等による意見交換会を実施した。なお、本意見交換会の進行については、検討委員会委員であり、ワーキンググループメンバーである札幌市立手稲宮丘小学校牧野宜英先生に依頼した。意見交換会の実施概要を以下に整理するとともに、意見交換会の様子を写真 4-2に示す。

【交通環境学習実践概要】

- 実施日：平成24年2月8日(水)研究授業終了後
- 実施校：札幌市立屯田小学校
- 参加者：新保委員・上田委員・牧野委員・斉藤委員・屯田小校長・市内小学校教諭・富山市役所職員・交通エコロジー・モビリティ財団 岡本氏
- 進行：札幌市立手稲宮丘小学校 牧野 宜英 先生



写真 4-2 意見交換会の様子

4-2-2 意見交換会での意見

意見交換会における主な意見を以下に示す。

～研究授業について～

- * 斉藤先生の授業の仕方が素晴らしかった。
- * 児童が自ら考え、熱心に発言しており、良かった。

～今後のえきバスナビを使った授業の展開～

- * 公共交通の利用促進に偏りすぎていた。
- * えきバスナビの利用数と地下鉄や JR の利用数との比較があれば子供たちはより考えるのではないか。
- * えきバスナビの便利さには気づいているが、実感を持たせることが必要。自分ごととしての便利さ、生の経験が増えた方がいい。
- * 他機関と連携した授業づくりができたのがよい。
- * 情報の單元においては、富山市のバスロケーションシステム等、札幌には無い情報技術についても知識として教える必要がある。
- * MM は、子供たちが社会に出て役立つ内容。1～2割の子供たちが公共交通を選択するようになればいい。
- * えきバスナビの利用を増やすため「なぜ増やすのか?」といった抽象と、えきバスナビは便利といった具体化を必要。

～その他～

- * えきバスナビを使ってみよう、公共交通で通勤してみようと思う。

第5章 交通環境学習プラットフォームの検討

5-1 交通環境学習プラットフォーム設置の目的

MM教育の観点での関係者としては、小学校関係者に加え、行政、さらに、公共交通を運行する交通事業者等が存在する。ここで、行政においては、基礎自治体に加えて、運輸行政や道路行政の関係も深い。また、札幌市においては、(財)札幌市交通事業振興公社も存在し、児童が公共交通に乘車し、スタンプラリーを行う「サタデーテーリング」や子どもを対象とする各種イベントを実施している状況にある。加えて、バス事業者を協会とするバス協会も存在し、本協会においては、「バスの日」等に児童を対象としたイベント等も積極的に実施している状況にある。

上述した取り組み以外にも、現状において、MMに関連する取り組みは多く、これらをより、効果的・効率的に実施するためには、関係者間の情報共有や連携の必要性は高いと考えられることから、本事業において、関係者間の「MM教育プラットフォーム」を構築することを目的とする。

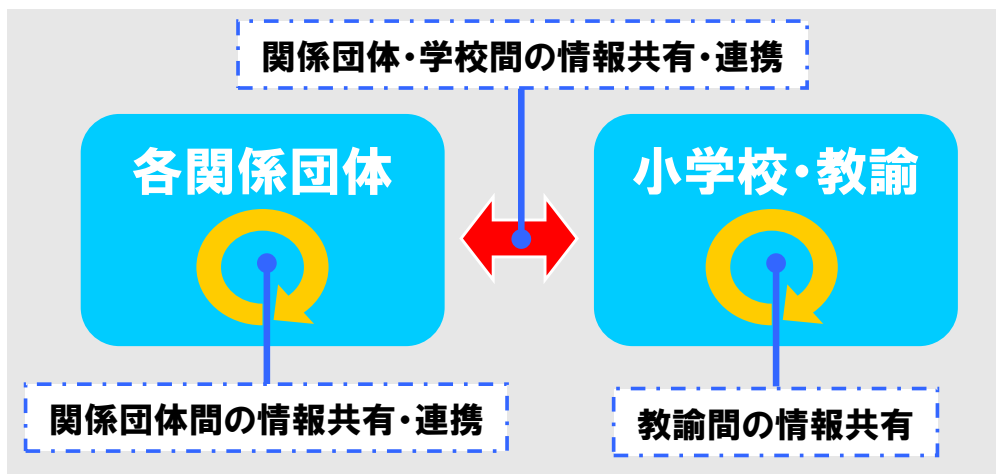


図 5-1 プラットフォームの目指す方向性

5-2 交通環境学習プラットフォームの取組み

行政間・学校・関係団体間の情報共有及び連携を促進するために、「MM教育プラットフォーム」の検討を実施した。なお、本プラットフォーム構築にあたっては、検討委員会及びWGで実質的な議論・検討を行った。

5-2-1 関係者間の協働・連携方法について

本年度、研究授業についてワーキンググループ構成員の教諭に検討いただいた過程においては、教諭から、“冬道と普段の道路の写真”や“バスの路線・系統数・バス停数”、“バスの遅延状況のデータ”、“バス交通への補助金額”、“スパイクタイヤや粉塵に関する資料”等についての提供要請を頂戴した。

今後は、各関係団体と協働・連携により、効率的かつ効果的に教諭の要望に応じていくために、以下のスキームを構築とすることとした。なお、教諭からの問い合わせやデータ提供依頼については、事務局がメーリングリスト等を通じて、一括して受けることとし、事務局においてデータ提供が困難な場合は、事務局より、検討委員会の委員及び関係団体に依頼を行うものである。

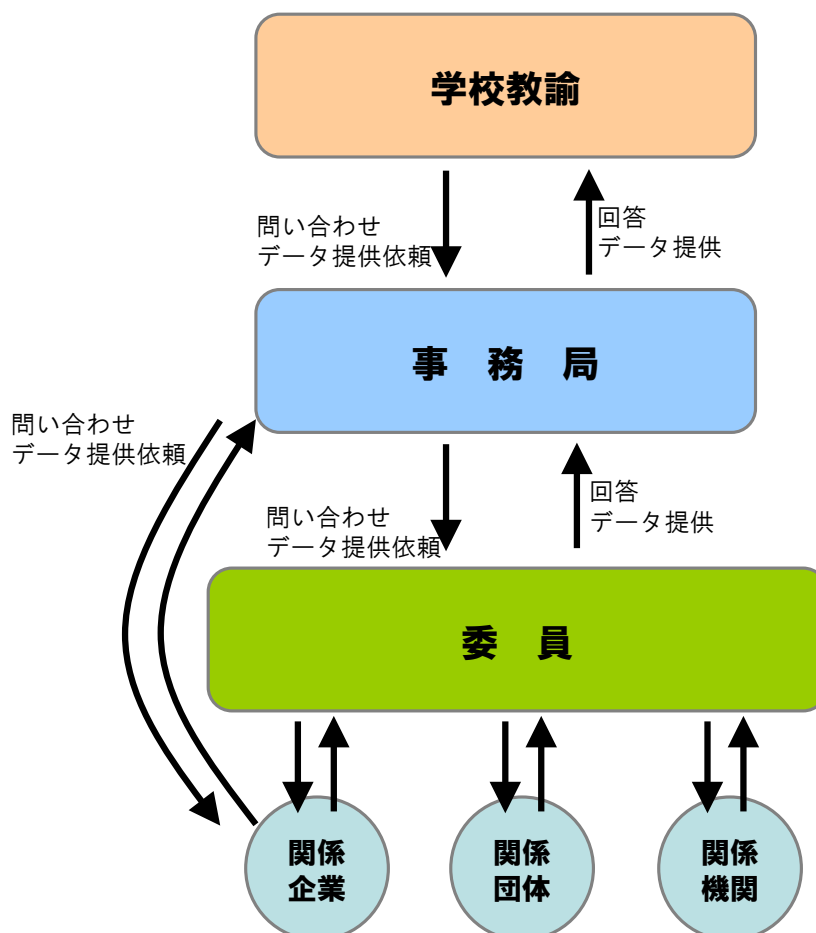


図 5-2 連携・協働スキーム

5-2-2 webプラットフォームの構築

webプラットフォームの構成を下図に示す。トップページは本プラットフォームの概要を説明するページにするとともに、各関係団体及び学校からの新着情報を掲載する。また、資料室において、MM及びMM教育の説明を行うMM説明ページや本事業で設置したWGで検討・構築する授業プログラムを授業実践方法として紹介するページやMM教育実践に関連するデータや素材をダウンロードするページを設けることとする。

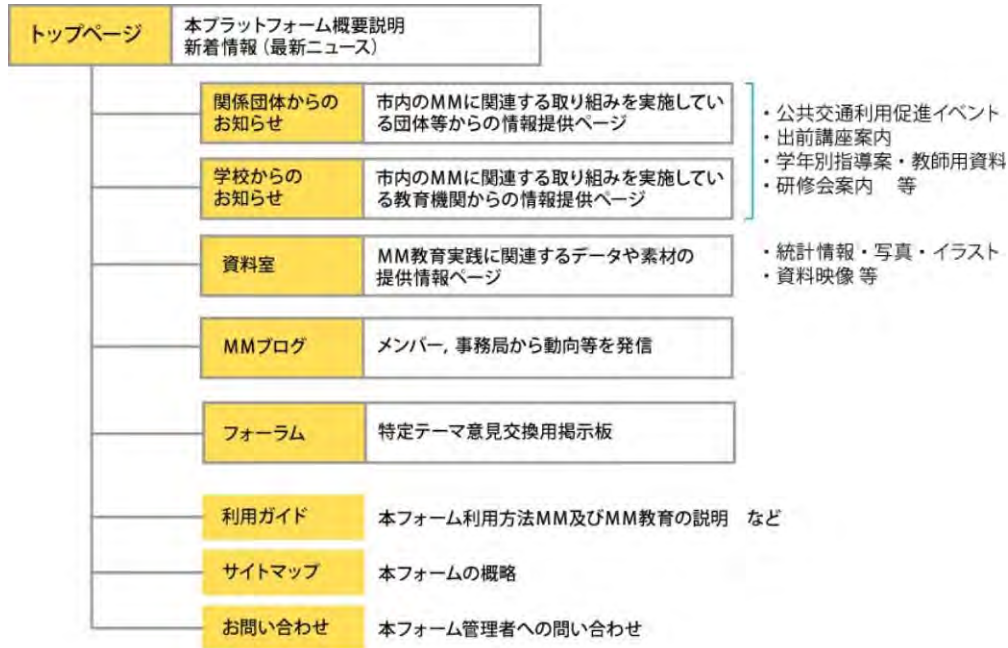


図 5-3 webプラットフォームの構成

このテーマファイルは、デザイン確認用のテスト版です。

最新情報

- 2011-12-15 14:10 公開授業のお知らせ(学校からのお知らせ)
- 2011-12-15 14:09 第2回札幌らしい交通環境学習・検討会(関係団体からのお知らせ)
- 2011-12-15 14:04 第2回ワークショップのご案内(関係団体からのお知らせ)
- 2011-12-15 14:01 出前講座について(関係団体からのお知らせ)
- 2011-12-15 14:00 公共交通利用促進イベントのご案内(関係団体からのお知らせ)
- 2011-12-15 13:59 出前講座のご案内(資料室)

モビリティ学習イベント

モビリティ・マネジメント教育とは、私たち一人ひとりの移動手段や社会全体の交通者人や社会、環境にやさしいという観点から見直し、改善していくために自発的な行動を取れるような人間を育てることを目指した教育活動を意味します。

札幌は年間降雪量が50cmにも達する積雪帯にありながら人口190万人を抱える、世界にも類を見ない都市であり、公共交通機関はなくてはならない存在です。自動車や公共交通機関がこれだけ使いやすくなることができる大人になるうえで、小学生が「環境」「雪」という観点からこの公共交通機関の重要性を学ぶことは大変有意義なことです。

このサイトは、札幌独自のモビリティ・マネジメント教育に向けて、学校教育と自治体や交通機関などの関係者が積極的な連携のネットワークを築くことを目的として運営されています。

最新ニュース

その他 第2回札幌らしい交通環境学習・検討会

投稿者: shinnori 投稿日時: 2011-12-15 16:30:08 (2ヒット)

第2回札幌らしい交通環境学習・検討会のご案内

日時: 2011年12月26日(月) 14~16時
場所: 社団法人北海道開発技術センター9F会議室

第2回検討会を開催いたします。
年の瀬開催です。
おそれいますが、皆様どうぞよろしくお買いいただきます。

【関係団体】
・関係団体からのお知らせ:自治体、交通事業者、事務局からの情報を掲載します。
【学校から】
・学校からのお知らせ:教育機関からの情報を掲載します。

【フォーラム】
・特定テーマについての意見交換を行います。関係者間で、意見交換を行う機能です。掲示板のような機能です。

【MMブログ】
・一般的なブログです。動向等について発信します。

【資料室】
・指導案や関係イベントの広報資料、MM教材等をアップロードし、ユーザーがダウンロードできる機能です。

【ニュース投稿】
・学校や関係団体のお知らせなど新規投稿された記事が反映されます。

図 5-4 webサイトの機能説明



図 5-5 web サイト



図 5-6 web サイト

Mobility Management ? ご利用ガイド | サイトマップ | お問い合わせ

札幌らしい交通環境学習 プラットフォーム ようこそ！ ooiさん | ログアウトはこちら |

関係団体から | 学校から | 関係先 | MMブログ | フォーラム

メニュー

- ▶ ホーム
- ▶ 関係団体からのお知らせ
- ▶ 学校からのお知らせ
- ▶ 資料室
 - ▶ 教材
 - ▶ パンフレット
 - ▶ 人気ダウンロード
 - ▶ 高評価ダウンロード
 - ▶ ファイル一覧
- ▶ MMブログ
- ▶ フォーラム
- ▶ コンテンツ一覧

このテーマファイルは、デザイン確認用のテスト版です。

カテゴリ選択 当サイトのデータベースには 1 件のファイルがあります

[PDF] [RSS] [ATOM] [一覧]

📁 教材 (0) [RSS] [一覧]

📁 パンフレット (1) [RSS] [一覧]

[【カテゴリ新規作成】](#)
[カテゴリ選択](#)
[新規登録](#)
[カテゴリ編集](#)
[ファイル破損/リンク切れチェック](#)

新着ダウンロード

カテゴリ パンフレット [マイリンクに追加](#)

由前講座パンフレット

pdf 掲載日: 2011-12-9

説明

1人1人のモビリティ(移動)が、社会的にも個人的にも望ましい方向(過度な自動車利用から公共交通等を適切に利用する等)に変化することを促す、コミュニケーションを中心とした交通政策であるモビリティマネジメントが、近年、各地で取り組まれるようになってきました。このたび国土交通省では、モビリティマネジメントの基本的な考え方や各地での取組事例を紹介するパンフレットを作成しましたのでご紹介します。

モビリティ・マネジメント

交通をとりまく様々な問題の解決に向けて

【ファイル名】 mm.pdf [MD5 checksum] f03647a08c7a8d2897ed1d07d955364a

8.07 MB 学校教育MMプラットフォーム

評価 0 (0 票)

[評価する](#) | [修正](#) | [ファイル破損/リンク切れを報告](#) | [友達に伝える](#) | [詳細な説明を見る](#)

このテーマファイルは、デザイン確認用のテスト版です。

PageTop ↑

図 5-7 web サイト



図 5-8 web サイト

第6章 本事業のまとめと今後の方針

6-1 本事業のまとめと今後の方針

表 6-1に本事業の目標とそれに対応した今年度の実施結果を整理する。

目標①・目標②に対応する実施結果として、1名の小学校長と5名の小学校教諭及び札幌市教育委員会を構成員とするワーキンググループを設置し、各学年におけるMM教育の実践の可能性についての検討を実施した。また、今年度については、ワーキンググループのメンバーである札幌市立屯田小学校の斉藤健一先生及び札幌市立新陽小学校の伊藤健太郎先生の協力により、2校の小学校で研究授業の実践がなされた。

今後は、札幌市の社会科教育の指導書への掲載を目指し、より研究授業を実践する取組みが必要と考えられる。また、MM教育をより多くの教諭・学校に認知いただくことも必要と考えられ、webプラットフォーム整備による情報提供や教諭を対象としたMM教育セミナー等の開催を企画・実施する必要があると考えられる。

さらに、MM教育に関連する団体等が連携し、教諭の多様なニーズに対応していくことも今後の課題と考えられ、次年度以降に連携事例やその実績を増やし、そこから派生する課題についても整理・解決していくことが重要と考えている。

表 6-1 本事業の目標とそれに対応した今年度の実施結果

目標		実施結果
目標 ①	学習指導要領と連動した 学習プログラムの開発	⇒ <ul style="list-style-type: none"> ・教諭を主体とするワーキンググループを設置し、学習プログラムを検討 ・研究授業の蓄積 (札幌市立屯田小学校・新陽小学校:計2校)
目標 ②	1年生～6年生まで、 各学年におけるMM教育の実施	
目標 ③	教諭が主体となった授業の実施	⇒ <ul style="list-style-type: none"> ・教諭が主体となった授業実践を実施 (札幌市立屯田小学校:斉藤先生) (札幌市立新陽小学校:伊藤先生)
目標 ④	札幌市内小学校への MM教育の広がり	⇒ <ul style="list-style-type: none"> ・教諭に配布される指導書への掲載にむけた検討 ・webプラットフォームによる情報提供にむけた検討 ・教諭を対象とした研修会等の実施にむけた検討
目標 ⑤	関係団体等の連携体制の構築	⇒ <ul style="list-style-type: none"> ・協働体制の構築にむけた検討 ・webプラットフォームによる情報共有にむけた検討

6-2 平成 24 年度のスケジュール

平成 24 年度は、前述した今後の方針に基づき、以下のスケジュールにより各実施内容に取り組む予定である。特に平成 24 年度早々に第 1 回ワーキンググループを開催することで、研究授業の実践数を増やしていくと同時に、web プラットフォームについても 10 月のリリースに向けて準備を進めていきたいと考えている。また、平成 24 年度は 8 月に日本モビリティ・マネジメント会議が富山市で開催されることが決定しており、本事業の成果等についても積極的に公表を実施していきたいと考えている。

表 6-2 H24 年度スケジュール（案）

	平成 24 年度実施スケジュール		その他
4月	↑ 実施計画の検討 ↓	↑	第1回WG
5月			JCOMM エントリー
6月	↑ MM教材開発 授業プログラム開発 交通環境学習（研究授業）の実践 ↓	↑	第1回委員会
7月			MM教育プラット フォーム検討・準備
8月			8/3-5 JCOMM
9月		↓	
10月		↑	
11月		↑	第2回WG
12月		↑	第2回委員会
1月		↑	第3回WG
2月		↑	第3回委員会
3月	↓	↓	完了報告書提出